



富山市の遺跡物語



富山城下町主要部で見つかった江戸時代の背割水路

一番町地内で行った富山城下町遺跡の発掘調査で、武家屋敷地と町屋敷地を分けていた背割水路を検出しました。8回の改修が確認されました。写真は江戸時代後期の背割水路で、平らな川原石を5~8段積んでいます（調査の詳細はp14参照）。

また、富山城下町として初めて調査現場を一般公開しました。約400名の参加者は、残りが良い水路の状態に驚きながら、興味深そうに見学しておられました。

目 次

史跡この1年	2	X 組織・事業費	30
埋蔵文化財発掘調査概要報告	5	寄贈1 平井一雄氏寄贈資料	31
事業概要		寄贈2 岡崎卯一氏旧蔵資料	32
I 調査一覧	15	研究余話	
II 遺跡地図管理	18	I 日本海城の下呂石の流通（古川知明）	36
III 史跡の保護・管理	19	II 小竹貝塚の眺望と行動範囲—地理情報	
IV 展示・普及	24	システム（GIS）解析から—（岡田一広）	40
V 刊行物	26	III 富山藩江戸藩邸の庭園を巡る	
VI 活用	27	（原祐一）	44
VII 調査研究	27	IV 医王山東榮寺蔵木造弘法大師像の仏師	
VIII 研修等参加	30	について—近世期仏師の新資料—	
IX 寄贈	30	（古川知明）	54

北代縄文広場この1年－平成25年度－

北代縄文広場の管理運営は、長岡地区自治振興会に委託しています。広場や史跡北代遺跡の説明、展示解説、縄文土器づくりや火起こしなど体験学習のお手伝いは、北代縄文広場ボランティアの会が行っています。

平成25年度は広場の案内サインの修理のほか、広場外周の金網柵・木柵の修理を行いました。また、クリ丸太材（主柱・垂木など）の調達・加工作業など、復元堅穴住居の修理に向けた準備を行いました。この他、長岡地区自治振興会の恒例行事「北代縄文サマーフェスティ」・「縄文冬まつり」・「縄文朝市」等、多くの行事が開催され、市民の交流に活用されました。また、中学2年生が学校外で就業体験等の活動を行う「社会に学ぶ 14歳の挑戦」として、新庄中学校4名、呉羽中学校5名を受け入れました。

北代縄文館では、ミニ企画展「富山地域の縄文遺跡」(4)・(5)として百塚遺跡と豊田大塚・中吉原遺跡を紹介しました。ボランティアの会による日頃の展示解説の他に、埋蔵文化財センター学芸員による展示解説会を行いました。市内外から多くの方々に参加いただき、郷土の歴史に対して関心が深いことがうかがわれました。

●縄文広場案内サインの修理

縄文広場には史跡北代遺跡や復元建物を解説した案内サインが4ヶ所に設置されています。このうち、長年の風雨等による傷みが激しい3ヶ所について、劣化した陶板を新しく取り替えました。



●社会に学ぶ 14歳の挑戦

－新庄中学校・呉羽中学校の活動－

広場の管理運営を体験しました。ボランティアから手ほどきを受け、来場者への出土品展示解説などの練習を重ね、実際に案内しました。縄文土器づくり用の粘土をこねる下準備や除草などの地道な作業も行い、来場者を迎える苦労とやりがいを感じました。

来場者からいただいたねぎらいの言葉から、達成感も得たようです。

ミニ企画展の展示替えの時期に活動を行った新庄中学校の活動では、平岡遺跡出土品の展示を行いました。初めての体験で緊張していましたが、見学者に何を見て欲しいのか、見やすい展示方法は何かを考えながら皆で協力して取り組みました。

展示後はテレビ局や新聞社から取材を受け、貴重な体験となりました。



●縄文広場敷地の整備

平成24年10月、市民の方から広場に隣接する土地(502m²)を寄付いただきました。平成25年5月にこの土地への盛土造成等を行いました。あわせて、周辺の環境美化も行いました。縄文土器の野焼き場に隣接するこの土地を、縄文広場での体験学習用地の一部として有効に、そして大切に活用させていただきます。

(小黒智久)

やまとじゅうとせ 安田城跡歴史の広場この1年一平成25年度一

安田城跡歴史の広場は、市内の小学校をはじめとする学習活動だけではなく、四季折々の風景を楽しむことができる憩いの場となっています。曲輪をめぐる水堀は睡蓮の名所となっており、見頃となる6月には色とりどりに咲く花を目当てに多くの人々が訪れます。4月には野鳥が飛来し、冬期には雪化粧の立山連峰をバックにした城跡が眺望でき、撮影・写生スポットとしても親しまれています。また、地元朝日地区の行事会場としても活用され、地域活性化や生涯教育の場となっています。

●安田城跡歴史の広場 20周年記念 戦国の世・佐々成政攻めの城をめぐる

平成25年5月19日、安田城跡歴史の広場20周年を記念して、安田城跡から白鳥城跡まで往復8kmのウォーキングを行い、参加者131名が歩きながら戦国時代の城について学びました。

・安田城にて

安田城跡右郭で開会式を行った後、城郭研究家の佐伯哲也氏による安田城の解説を聴きました。

氏は、安田城の構造について、本丸に二の丸・右郭が土橋で連結した連続馬出となっている点が最大の特徴であり、土橋を渡る敵兵に対し、土壁上から攻撃を加えることができたと説明されました。そしてこの縄張りは、天正13(1585)年、前田利長が佐々成政を征伐した後、佐々領を監視するために当時の最新技術を導入して大改修したものであると推測されました。

安田城は、前田・佐々の抗争の結末を物語る越中戦国史の記念碑ともいえる城であり、末永く保存し、郷土史の研究材料として活用して欲しいと述べられ、安田城跡の重要性を改めて認識しました。

・白鳥城にて

安田城跡を出発し、約1時間半をかけて奥羽丘陵山頂の白鳥城跡までウォーキングをしました。

白鳥城は、天正13年富山城の佐々成政攻略のため、前田利家が羽柴秀吉のための本陣としたとされる山城で、安田城はその支城でした。

ここでは本丸に集合し、眼下に広がる富山平野の眺望を眺めながら、佐伯氏の解説に耳を傾けました。佐伯氏は、白鳥城の構造の特徴について、本丸までのルートが計画的に設定されている点、上部の郭から下部の郭を防御できるようになっている点、要所に土壘や櫓台を設けて防御力を増強している点などを挙げられ、この縄張りには極めて高度な技術が導入されており、織豊系の武将によって構築されたものであると説明されました。



急な山道もある長距離のウォーキングでしたが、全員が元気に歩き切ることができました。戦国時代に思いを馳せつつ、心地よい汗を流した1日となりました。



●社会に学ぶ 14歳の挑戦

平成25年7月11日・12日、新庄中学校2年生4名が、管理運営業務を体験しました。

展示品や映像で史跡の概要を学習した後、資料館の展示ケースや窓などを丁寧に掃除したり、広場の草むしりなどの裏方の仕事に汗を流しました。両日とも気温が35度を超える猛暑のなかでの作業でしたが、来館者からねぎらいと感謝の言葉をかけられると、照れながら顔をほころばせていました。

●夏休み企画 お城をもっと楽しもう！ペーパークラフト作製体験（富山城櫓御門）

平成25年8月9日、安田城跡資料館で児童と家族32名が、富山城の二の丸にあった二階櫓門のペーパークラフトを作製しました。

ペーパークラフトの台紙は、江戸時代に描かれた「櫓御門新絵図」をもとに、当センターが作製したものでした。児童は家族と協力しながら、石垣や土塹、屋根などの部品を切り貼りして組み立て、幅30cm、奥行き20cm、高さ9cmのミニ櫓門を完成させました。体験後、「お城も工作も好きなので楽しかった」「門の構造が分かって良かった」などの感想が聞かれ、郷土の城に楽しく親しむ良い機会になったようです。



●佐伯哲也氏縄張り図展 展示解説会

城郭研究家の佐伯哲也氏が、縄張り図展に合わせて城についての解説をされました。

・安田城を彩った武将たちの城展 解説会（平成25年6月21日） 安田城の縄張りの特徴や築城理由について、図面や航空写真を使いながらご自身の研究に基づき話されたほか、前田利家や佐々成政ゆかりの城の縄張り図から読み取れる築城者の意図について説明され、縄張り図の面白さを教わりました。

・越中戦国史を彩った武将たちの城展 解説会（平成25年10月25日） 上杉謙信による越中侵攻が城郭整備に強い影響を与えたこと（上杉系城郭）や、一向一揆が築いた寺院城郭、佐々成政による越中統一前後の戦国武将たちの動向などについて、城の縄張り図から読み解かれました。また、城の構造は山中をくまなく調査して初めて明らかになるものであり、縄張り図は大変な苦労の上に完成しているという話もされました。解説会は2回とも満席で、城への関心の高さを感じました。 （大野英子）



埋蔵文化財発掘調査概要報告

調査概要報告 1 縄文時代晚期の祈りの場

吉作遺跡

(住吉地内)

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、^{（高さ14～17m）}真羽丘陵西麓に位置し、標高 14～17m の丘陵緩斜面上に立地する、縄文・奈良・平安時代の集落跡です。

昭和 61 年度の調査では縄文時代後期・平安時代の遺構・遺物が見つかりました。

本遺跡の南西 1.6km にある古沢遺跡では、縄文晚期に粘土探掘が行われ、また石刀・特異な土版を副葬した墓穴が検出されました。隣接する古沢 A 遺跡では、晚期の巨大な 6 本柱の高床建物跡や竪穴状遺構が検出されました。またその南の杉谷 64 番遺跡・杉谷 81 番遺跡（北陸自動車道路線内で消滅）や南西 4.5km の射水丘陵の開ヶ丘中山 I 遺跡でも、後期から晚期の建物跡が見つかりました。このように真羽丘陵西麓から射水丘陵にかけての一帯は、縄文後・晚期に多くの集落が営まれ、生活や信仰の場となっていました。

2 調査の概要

今回の調査は、個人住宅建築工事に先立つ発掘調査で、細長い調査区であるため、全体の様子は把握しづらいものでしたが、縄文時代晚期（約 2,400 年前）の土坑や谷地形が見つかりました。谷地形は、幅 15 m、深さ 1.2m で、緩い U 字形をしています。谷地全体から、縄文土器や石器などが大量に出土しました。須恵器は表土から出土したため、近くから流れ込んだと考えられます。

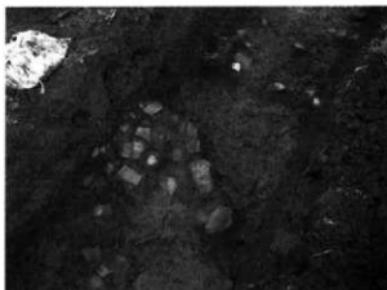
出土遺物には、縄文土器、イノシシをかたどった装飾のある縄文土器、土偶の腕・足、石刀、磨製石斧、打製石斧、須恵器などがあり、縄文晚期の遺物が主体です。

3 縄文時代の水辺のまつり

調査中には谷地から水が大量に湧き出しました。当時の地形から見て、今回調査区の谷地形は、西に存在する大きな谷の谷頭にあたり、水源地であったと考えられます。

土偶や石刀などの呪術用具は、すべて部品の状態であり、完全な形のものはありません。使用できなくなって廃棄されたか、わざと壊され、谷に捨てたと思われます。

イノシシ形の装飾は、丸い突起に小さな穴を二つ開けて鼻を表現し、左側からイノシシの顔を見た状態を表した、土器の口縁部の装飾と考えられます。土器全体で動物を表現する例があり、土器の胴部ではイノシシの体を表現していると考えられます。



谷地における縄文土器出土状況（西から）



イノシシ形装飾のある土器口縁部（上）・土偶
(左下の足部分の長さ 4.8cm)

（細辻嘉門）

調査概要報告2 奈良・平安時代の土師器生産拠点

西金屋遺跡

(古沢地内)

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、真羽丘陵西麓に位置し、東に向かって緩やかに傾斜する、標高15~18mの丘陵斜面に立地する縄文・弥生・奈良~中世の集落・生産遺跡です。

平成5年度の市道改良工事に伴う調査で、奈良時代(約1,100年前)の須恵器窯跡・粘土探掘坑を確認しました。出土遺物には四脚をもつ円面鏡があり公的な施設に納めた製品と推定されます。

平成22年度の個人住宅に伴う調査で、奈良時代の土師器焼成遺構3基を検出しました。この遺構は、婦負郡内で初めての検出です。

真羽丘陵から射水丘陵東部にかけては、飛鳥時代に操業された金草第一古窯や8世紀の瓦陶兼業窯である柄谷南遺跡(市史跡)等の窯業遺跡が集中し、越中国における手工業生産の中心地帯であったと考えられています。

2 調査の概要

今回の調査は、個人住宅建築に先立ち、100m²を対象に行いました。確認された遺構には、平安時代の土師器焼成遺構1基、2間×1間の掘立柱建物1棟、土坑等があります。

出土した遺物には、縄文土器、須恵器、土師器などがあり、ほとんどが土師器でした。中には生焼けのものもありました。

3 奈良・平安時代の土師器生産工房

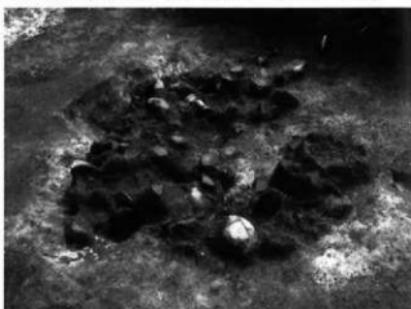
土師器焼成遺構は直径2m、深さ0.2mで、円形に地面を掘りくぼめて浅い穴にしたもので、北側が緩やかに浅くなっています。焚口として開口している形と考えられます。穴の底面は高熱を受けて赤く変色し、直径0.2~0.3mの小さい穴がありました。

穴から出土した土師器の種類には、壺・長頸壺・小型壺などがあります。土器は穴の底面から遺構上面まで隙間なく出土しました。

掘立柱建物は、土師器焼成遺構の東側0.5mに隣接しています。地面の一部に被熱による硬化面があり、土師器を作製した工房建物の可能性があります。

今回の調査では、この地域での土器生産体制を支えた工人の生活の一部を明らかにすることができました。

(細辻嘉門)



土師器焼成遺構（北西から）



掘立柱建物（南から）

調査概要報告3 鎌倉～戦国時代の集落

友坂遺跡

(婦中町下条地内)

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、神通川支流井田川左岸の標高12～18mの微高地上に立地する、繩文・奈良～近世にわたる集落跡及び中世の城館跡です。

昭和56・57年と平成3・4年度には、朝日小学校改築に伴う調査で、平安時代の堅穴建物や中世の大溝などが見つかりました。大溝は幅4～5.7mで、直角に折れ曲がり二重に廻る構造です。大溝の内側からは掘立柱建物・土坑が検出されており、生活空間を示すことから館と推定されます。この館は12～15世紀代のものです。

本遺跡の北東0.8kmには、天正13(1585)年、川向かいの富山城の佐々成政攻めの際に豊臣方の前田利家が築いた安田城跡(国史跡)があります。また、北東1.7kmには、製鉄関係の工人集落遺跡である金屋南遺跡があります。安田城や白鳥城、大畠城のほぼ中間に位置するため、城館遺跡との関連がうかがえます。

のことから、遺跡周辺は戦国時代には越中の交通の要衝として、重要な位置を占めていたと考えられます。

2 調査の概要

今回の調査は、個人住宅建築工事に先立ち8月～9月にかけて行いました。その結果、平安時代・鎌倉～戦国時代の素掘り井戸2基や溝、土坑、柱穴が見つかりました。出土遺物には、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、青磁、土鐘などがあります。遺物は中世のものが大半を占め、須恵器は表土から出土したため、流れ込みと考えられます。

3 中世のようす

今回の調査では、過去に見つかった館跡や安田城と同時代の集落が、南に広がっていることがわかりました。

検出した井戸は、2基とも素掘りです。

素掘りの井戸は、掘るのは簡単ですが、壁が崩れやすく、長期間維持するには手間がかかります。友坂遺跡では、過去の発掘調査で館跡周辺に中世の木組井戸や石組井戸が確認されていることから、堅固な構造の井戸を築く技術や知識がこの地域にも伝わっていたことがわかります。

のことから、今回検出した井戸は、集落の縁辺部で短期間だけ水を得るために掘られたか、あるいは農作物用の野井戸と考えられます。

(細辻嘉門)



調査区西側の下層遺構（南から）



井戸跡（北西から）

調査概要報告4 弥生時代と中世の集落

四方荒屋遺跡

(四方荒屋地内)

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、神通川左岸の平野部に位置し、標高 3mの微高地上に立地する、弥生時代～近世の集落跡です。

平成 7・9・11 年度の宅地造成に伴う調査で、鎌倉～室町時代の集落跡が確認されました。短冊形の地割で構成された屋敷地や、大型の掘立柱建物が左右対称に配置される状況から、公的な施設の存在が推定されます。

2 調査の概要

富山北消防署和合出張所の移転建築に先立ち 1,088 m²を対象に調査を行いました。

遺跡は、中・近世と弥生時代の 2 層が重複する複合遺跡です。

中世後半～近世（約 400～500 年前）の遺構には、溝・井戸・土坑を確認しました。

溝は 400 条以上あります。畑の歴跡とみられ、その方向からみて 3 時期の変遷があります。井戸は、直径 60～80 cm の素掘りの構造のものが 2 基あり、約 20m 離れた間隔で作られています。周囲に建物がないことから、畑の作物への水やり用に掘られたものと推定されます。

この遺構の 5～10 cm 下から、弥生時代後期（約 1,800 年前）の溝・土坑を確認しました。

出土遺物には縄文土器・弥生土器・中近世陶磁器などがあります。

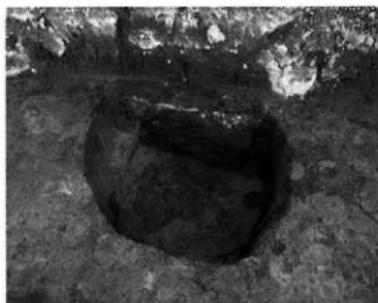
先の調査では、居住域と畑が重複して見つかっており、居住域から畠地、畠地から居住域への土地利用がめまぐるしく変化する歴史があります。今回の調査では、畠地のみが確認され、居住域は存在しませんでした。居住域の中心と想定される場所からは 200m 南に離れていることから、集落の周囲に広がる広大な畠地の一部と考えられます。

3 弥生時代の遺構と地震跡

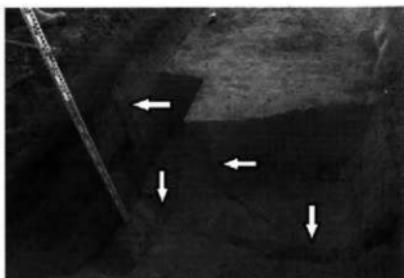
下層で見つかった弥生時代後期（約 1,800 年前）の溝は、大きなもので幅 70 cm、深さ 50 cm の大きさがあり、排水路と考えられます。別の溝からは弥生後期の土器に混じって、中期（約 2,000 年前）の土器も見つかっており、周辺に弥生中期の集落が存在する可能性があります。

下層遺構の調査中に、埴砂跡を確認しました。埴砂は大規模な地震による

液状化現象の痕跡です。弥生時代の遺構を突き破って砂が吹きあがり、中～近世の遺構の下で止まっていることから、天正地震（1586 年）あるいはそれ以前の貞觀地震（869 年）によるものと推測されます。



井戸跡（東から）



跡砂の痕跡(矢印部分が砂跡)

(近藤顯子)

(北代地内)

1 遺跡のあらまし

この遺跡は、奥羽丘陵の西麓、標高約15mの台地上に立地します。周辺は市内で最も遺跡が集中する地域で、縄文時代から江戸時代まで遺跡が連続と形成されています。

平成20年度に今回の東側隣接地で行った調査では、南北に延びる鎌倉時代の溝が2条見つかりました。

2 溝で区画された集落

今回の調査では、鎌倉時代(約700年前)の大規模な溝を2条検出しました。一つは南北に延び、もう一つはそれに直交して東西方向に延びます。幅1.3~1.4m、深さ0.5~0.8mの規模で、屋敷地の周りを区画する溝と考えられます。

平成20年度に発掘した溝も同じ区画溝とみられ、両調査区の成果から、溝で囲まれた東西約22mの屋敷地があったと推測できます。溝は調査区の外側へも延びていることから、同じような区画された屋敷地が少なくとももう一つ存在し、複数の屋敷地で構成された集落と推定されます。

3 出土品にみる暮らしの様子

鎌倉時代の出土品には、かわらけ・珠洲焼などの日常使う容器のほか、中国製の高級磁器の青磁があります。区画溝をもつこの屋敷には、身分の高い人物がいたことがわかります。

このほか縄文時代中期(約5000年前)と平安時代(約1200年前)の出土品がありました。平安時代は多くの土器のほか、漁網のおもりとして使った土鍬、製鉄で生じた不純物(鉄滓)などを見つかっています。隣接地の調査では、製鉄時に空気を送るために用いた羽口が出土しており、漁労や生産活動を行っていたとみられます。

4 繼続して営まれた集落

出土品からは、鎌倉時代だけでなく、平安時代、縄文時代にも人が住んでいたことがわかります。特に平安時代の出土品は多く、規模の大きい集落が存在したと推測されます。周辺では奈良・平安時代以降、耕地の開発を行う集落が増えることが知られており、そうした集落の一つとみられます。このように長期間集落が営まれた背景には、自然地形に富んだ台地が生活や生産活動に適していたことがあると考えられます。

(野垣好史)



直交する区画溝



青磁・鉄滓 (右下は上下10cm)

(新庄町 1丁目地内)

1 遺跡のあらまし

この城跡は、常願寺川中流左岸に位置し、標高 13~14m の微高地上に立地しています。富山から水橋へ抜ける旧北陸街道沿いという交通の要衝に作られた戦国の平城として知られ、越後上杉氏が越中支配のため戦略上の拠点とした重要な城でした。江戸時代の記録によれば、城の規模は、本丸が東西 75~78 間（約 137~142m）、南北 52~70 間（約 95~127m）、二の丸が 30 間（約 55m）四方、堀幅 6 間（約 11m）と記されています。

文献に「新庄」の名が最初に表れるのは、永正 17 (1520) 年長尾為景がこの地

で越中守護代神保慶宗と対戦し、神保が敗戦した「新庄の合戦」です。城は、天文年間 (1532~1555) に神保方の三輪飛騨守が築城したと伝えます。その後、椎名方の轟田備後守や井上肥後守が城主となりました。元亀 2 (1571) 年上杉氏により落城し、鶴坂長実が城主となりました。翌 3 年「荒川尻並坂の合戦」や天正 6 (1578) 年「地獄堂東坂口の合戦」では、上杉氏の拠点となりました。天正 8 年以降は、織田方の重要な支城となりましたが、天正 11 年佐々成政による越中平定以後は、城に関する文献はありません。江戸時代には城跡に加賀藩の作食御蔵が建っていました。このように 16 世紀前半から後半にかけての新庄城は、越中戦国史上重要な城郭であったことが分かります。

2 調査の概要

調査は、市立新庄小学校体育館改築工事に伴い、1,862.2 m² の発掘を行いました。調査では、飛鳥・白鳳時代～平安時代（約 1,300~1,100 年前）、室町時代（約 600~550 年前）、戦国時代～江戸時代（約 550~400 年前）の遺構が見つかりました。

出土遺物には、弥生土器、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、越前、瀬戸、常滑、中国製青磁、近世陶磁器、輪羽口、鉄滓、釘、木製品（漆器、曲物・下駄・建築部材など）、石製品（五輪塔、板碑、宝篋印塔など）、銅錢、墓石、馬の骨などがあります。

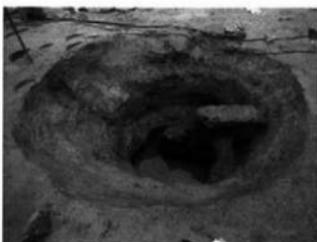
3 古代の集落

飛鳥・白鳳時代には、土坑、平安時代には掘立柱建物 1 棟、井戸などがあります。飛鳥・白鳳時代に初めて集落が営まれたことが分かりました。承平年間（931~938）に編纂された『和名類聚抄』には、古代新川郡 10 郷の 1 つに志麻郷があり、これを構成する集落の一つと考えられます。

出土した須恵器には、墨をするための円面鏡もあり、文書を作成する公的施設の存在が推定されます。



調査区手前から東の立山連峰を望む景色



平安時代の井戸（西から）

4 室町時代の跡跡

堀と土塁が見つかりました。堀の幅は3.5m、深さ1.2mで、土塁は堀に沿って築かれ、幅2.4m、高さ0.8mが残っていました。当時はもう少し高かったと推定されます。これらの内側には、井戸などがあり、生活空間でした。堀内から出土した中世土器・中国製青磁の年代から、この堀と土塁に囲まれた館は、15世紀前半に築かれ、有力者が居住したと考えられます。



室町時代の土塁・堀の断面（北から）



戦国時代の大型の堀（北西から）



何層も盛土造成した様子

5 戦国時代の城跡

15世紀半ばの城の構造は、堀と土塁があり、堀の規模は幅5.0m、深さ1.45mと大型化します。土塁は幅4.7m、高さ0.65mが残り、これも当時大きいものでした。15世紀末～16世紀前半には、堀はさらに大きくなり、幅5.0～6.0m、深さ1.8～2.4mになりました。応仁の乱（1467年）前後に、防御性を高めるため堀や土塁を大型化して城郭を作り変え、その後も改修を繰り返していることから、越中國内が戦時の緊張状態であったことがわかります。

16世紀前半になると、城郭全体が大規模に埋められ、更に大きな城郭が作られました。これが記録に表れる新庄城と考えられます。これに伴う遺構は幅7.6m以上、深さ1.3mの堀と石組井戸のみが確認できました。

小学校が建つ場所は、古くから「御屋敷山」と呼ばれた小高い丘でしたが、校舎の建築や拡張の際に平らに削られました。そのため、新庄城の曲輪などの大部分は削られてなくなつたと推定されます。新庄城期の遺構が少ないのは、このためです。

6まとめ

今回の調査では、文献でしか知られていないかった新庄城の遺構が明らかになりました。また城以前に有力者の館が存在し、何度も改修を繰り返して城へ作り替えていった過程がよく分かりました。（堀内大介）



発掘後の状況（上が北）

(西町地内)

1 遺跡のあらまし

調査地は、富山城南東側の北陸街道に面する城下町主要部にあたります。

平成20・21・25年度の調査で、武家屋敷と町屋敷を分ける背割水路、平成21年度の調査では、越前町交差点と総曲輪フェリオ南側で近世北陸街道の道路部分と考えられる幅約9m・厚さ約6cmの路面層を確認しました。

2 調査の概要

西町南地区第一種市街地再開発事業に伴い、初期大和百貨店跡地380m²の調査を行いました。江戸時代後期から幕末期を主体とした遺構・遺物が見つかりました。井戸基7基・土坑8基・溝4条・穴などを確認しました。このほか、近代の石組井戸等があります。

3 江戸時代の生活

井戸は、調査区の東側に集中して作られていました。木組井戸は幕末期のもので、近代には庄川金屋石製の石組井戸に変化します。

井戸として使用した後、ゴミ穴に転用された井戸が4基あります。その一つからは、網籠が伏せられた当時の形のまま見つかり、その下には種子類や木製品が大量にありました。食物の残滓や壊れた生活用具を一括で捨てたとみられます。

また、別の土坑からは、薄く削られた細長い板材が大量に出土しました。土坑の土を分析したところ、人間につく寄生虫の卵が確認されたことから、この穴は便所であることがわかりました。細長い板材は、紙の代わりに便を拭き取る道具「籌木」です。

4 江戸時代の木細工工房か

調査区からは整理箱60箱に及ぶ大量の木製品が出土しました。この木製品には、加工途中のものや、一定のサイズにそろえた板材などがあり、この場所で木材の加工が行われていたことを裏付けています。木工職人の工房が存在したと推定されます。

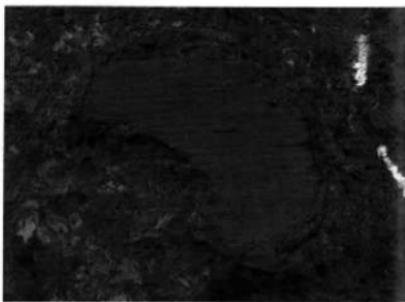
(近藤穎子)



調査区（南西方向から）



木組井戸(左)・石組井戸(右)



網籠

5 木簡に記された「久世伊平」について

試掘調査では、「富山西町/久世伊平様/かね与」と記された木簡が出土しました。西町の「久世伊平」宛の荷札木簡とみられます。平成 25 年 8 月に市郷土博物館坂森幹浩専門学芸員とともに、久世家の本家筋の方々から「久世伊平」について話を聞くことができました。

久世家は江戸時代後期に遡ることができます。初代・2 代目は福澤屋伊兵衛を名乗りました。屋号の福澤屋は、福沢（大山地区）出身だったことによります。平成 18 年度の総曲輪フェリオ地区の発掘調査で「越中富山 山イ 福澤屋伊兵衛殿」や福澤屋口兵衛の名のある荷札木簡が出土しました。

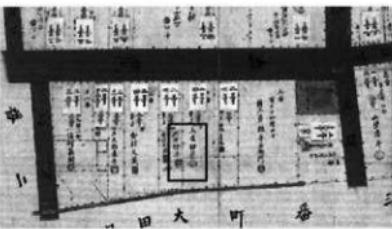
明治 9 年『富山西町古地図』には西町七番に「持主 久世伊平」、『寺院明細帳』真宗本願寺派正西寺の項に「明治 22 年 富山市西町七番 檜家絶代 久世伊平」とあり、この地に「久世伊平」がいたことを裏付けます。

明治 21 年 1 月 26 日付の「商業仲間組合取締」に「八百屋物 久世伊平」が選ばれています。大正 14 年『大日本職業別詳細図之内』には「久世乾物店」の記載があります。久世家に伝わる昭和初期の写真に「丸八青果問屋」（現在の富山中央青果株式会社）の半被を着た人物と、中央に初代公選市長尾山三郎（明治 20 年生）と並んで青果問屋社長を務めた久世伊平が写っています。

久世家は北陸唯一の問屋と伝わり、飛騨神岡や能登・新潟方面とも取引を行っていました。一方で久世家は、長岡御廟の下で「福澤屋レンガ工場」を営んでいました。明治 32 年北陸線吳羽トンネル用として県内で初めてレンガ生産を始めたのは 4 代目「久世伊平」と推測されます。5 代目の「久世伊平」は明治 22 年生、昭和 15 年没であることから、木簡に記された「久世伊平」は久世姓を名乗り始めた 3 代目と推測されます。5 代目の分家筋からは、金融再生委員長を務めた元参議院議員「久世公堯」や演出家「久世光彦」を輩出しました。

久世家が所在した西町は近世北陸街道に面し、飛騨街道も交差する交通の要衝でもありました。近くには高札場も設けられ、近世富山城下町では最も賑わっていた場所の一つでした。木簡やその他の出土遺物は、これまでほとんど知られていないかった、富山城下町の町屋にあった商家の変遷や実態を物語る貴重な資料といえます。

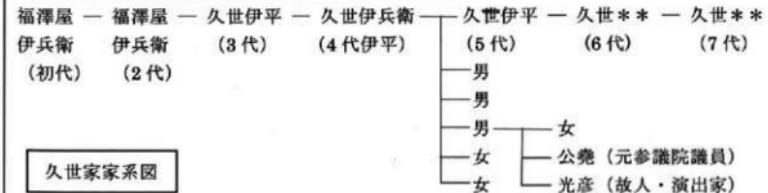
（鹿島昌也）



明治時代の富山西町古地図（富山市立図書館蔵）



出土した木簡



調査概要報告8 背割水路の変遷が明らかに

富山城下町主要部

(一番町地内)

1 遺跡のあらまし

調査地は、富山城南側の北陸街道に面する城下町主要部にあたります。城下町を東西に流れていた石積みの背割水路が見つかりました。2006年に今回の東側で見つかった背割水路に比べて積石の残りが良く、江戸時代後期以降3期の変遷を確かめることができました。



江戸時代後期の背割水路（西から）

2 背割水路の変遷

背割水路を境に北側が武家屋敷、南側が町屋敷に分かれています。背中合わせになった武家屋敷と町屋敷の間を流れていたことからこう呼びます。350年以上前の万治年間（1658～1661年）の絵図には、すでにこの水路が描かれています。

水路の変遷は、①江戸時代後期、②明治～大正頃、③戦前～戦後頃の3回の変遷が把握できました。いずれも平らな川原石を用いますが、石の積み方や溝の幅に違いがあります。江戸時代後期には約1.8mの幅があった水路を、徐々に幅を狭くして改修したことを確認しました。

3 町屋敷の遺構・遺物

背割水路南側の町屋敷では、複数の井戸が見つかりました。その一つは、縦板を桶状に組んで井戸枠とし、1m程の深さがありました。この他、当時の町人の暮らししづらがわかる陶磁器や下駄・漆器・羽子板などの木製品が多数出土しました。
(野垣好史)

調査概要報告9 内堀の幅が判明

富山城跡

(本丸地内)

内堀の端が見つかる

富山城本丸東側の水道管敷設工事に伴う調査で、内堀の東側の護岸部を確認しました。

地下約60cmの位置で、内堀肩部（端）の落ち込みが見つかりました。川原石積みで護岸しており、近代のものとみられます。石積みは、途中で本丸の方向に向かって曲がっていました。昭和21年の航空写真に内堀を渡る土橋が見えることから、見つかったのは、内堀の護岸と土橋の護岸が接する地点とみられます。

東側の内堀の幅は、これまで絵図から推測するしかありませんでしたが、今回の検出によつて約30mという正確な幅がわかるという大きな成果がありました。
(野垣好史)



内堀の護岸石積み

I 埋蔵文化財調査実績

先探調査 開発に先立ち、遺跡を記録保存することなどを目的とした調査です。

試験調査　開発予定地内の道路の有無などを確認する調査です。本は立会調査

古文書名	古文書名	古文書名	古文書名	古文書名	古文書名	古文書名	古文書名	古文書名	古文書名
四方面野原 (201003)	四方丈天江原 (201003)	駅東造城工事 木曾郡	603. 98	道跡なし					
四方面野原 (201003)	四方丈天江原 (201003)	駅西造城工事 木曾郡	855. 53	道跡なし					
大村(201009)	御井通子古跡路 水橋町	個人住宅建築 木曾郡	838. 66	道跡なし					
(201005) *		木曾郡地区配 水管部設置工事	203	道跡なし					
矢庭木原(201003)	本郷中部 本郷中部	個人住宅建築 木曾郡	336. 38	中庄上師部					
矢庭木原 (201003)	本郷中部 本郷中部	個人住宅建築 木曾郡	269. 48	不明廣なし					
今市(201003)	布目	個人住宅建築 木曾郡	74. 5	江戸坂、江戸土坑・江戸橋中瀬戸、江戸伊万里					
今市(201003) *	八幡	個人住宅建築 木曾郡	209	不明廣・古代土師器					
今市(201003) *	八幡	小学校外構造整 理工事	224. 79	道跡なし					
今市(201003) *	八幡	個人住宅建築 木曾郡	40	古代・土師器					
今市(201003) *	八幡	寺内修繕工事	686. 17	中庄林蔭、中庄八尾					
今市(201003) *	八幡	寺内修繕工事	57. 96	江戸坂・平安堀周囲、江戸陶器器					
今市(201003) *	八幡	寺内修繕工事	502	江戸坂・江戸土坑・鬼牛山土坑、江戸橋中瀬戸、江戸伊万里					
今市(201003) *	布目	個人住宅建築 木曾郡	51	生糞便					
今市(201003) *	布目	市道旁日10号幹 改良工事	50	兩文文(後)・地上土器層、江戸唐(道路側面か)、不明土坂、説文風廻木坂/調 理文土坂、江戸越中糞便					
今市(201003)	布目	個人住宅建築 木曾郡	259. 2	古代土師器、中世珠洲					
今市(201003)	布目	個人住宅建築 木曾郡	534	中庄大坂、中庄上坑・鬼牛山土坂、中世珠洲便。中庄上師部、近世陶器器					
今市(201003)	今島	寺寧堂(寺寧堂替 え)	611. 61	道跡なし					
今市(201003)	八幡	個人住宅建築 木曾郡	309. 73	鬼牛山土坑・鬼牛山土器、古代瓦器層、江戸鋸器、不明金屬器					
今市(201003)	八幡	個人住宅建築 木曾郡	65	道跡なし					
四方面鬼削 (201002)	西方面屋宇塗油 刷	店舗塗装	4, 417. 88	鬼牛山土坑、鬼牛上坑、鬼牛ピット、中根壤、中底上坑、中世ピット・鬼牛土 坂、不明石製品					
町原(201003)	町原	個人住宅建築 木曾郡	741. 77	道跡なし					
吉永(201005)	吉永	個人住宅建築 木曾郡	499	道跡なし					
水橋鬼削・辻 堂(201006) *	木曾橋鬼堂	中道木造建让・2号方面 外1号改良工事	20	不明軌、不明種子					
木曾橋田舎 宿(201009)	木曾橋田舎宿	個人住宅建築 木曾郡	499	開文上器、占吉土師器、平安頃惡器、鎌倉珠洲焼、中世青磁					
水橋水原 (201003) *	木曾橋町	木曾郡地区配 水管部設置工事	232	道跡なし					
水橋水原 (201003) *	木曾橋町	個人住宅建築 木曾郡	619	道跡なし					
水橋小池(201007)	木曾橋小池	個人住宅建築 木曾郡	784. 46	道跡なし					
水橋小池(201007)	木曾橋小池	無差別落成工事 二段・二段	543. 9	道跡なし					
(201007)	西・西	無差別落成工事 二段・二段	103. 5	説文(中)・開文土器、江戸陶器、不明土器					
第二段(201007)	西・西	無差別落成工事 二段・二段	461. 9	道跡なし					
第一段(201007)	西・西	駅東造城工事 木曾郡	928	道跡なし					
昭和寺城跡 (201009)	昭和寺城跡	個人住宅土器 木曾郡	315. 67	道跡なし					
昭和寺城跡 吉古(201011) *	昭和寺城跡 吉古	個人住宅建築 木曾郡	295. 83	道跡なし					
吉古(201011)	吉古	個人住宅建築 木曾郡	43	道跡なし					
			391	説文塗、開文土器、説文谷状地形(土器庵発見場所) / 説文土器、説文打ち置 牙					

遺跡名(調査No.)	所在地	調査原因	面積(㎡)	調査結果
新庄城跡 (2010449)	新庄町丁目	新庄小学校体育施設改築工事	2,330	室町土坑、室町柱穴、室町溝、室町窓、戦国土坑、戦国溝、戦国窓／室町土師器皿、室町八尾燒、室町天日茶碗、戦国土師器皿、戦国珠玉焼甕、江戸土師器皿、江戸陶磁器
小長谷Ⅱ (2010630) 下色(2010542)	新町中 小長沢 新町中 下色	個人住宅建築 農機具格納庫建 駐車場造成工事	633.54 205 740	江戸陶器 道跡なし 平安土坑、平安溝／弥生(後)弥生土器、平安須恵器
黒崎大屋 (2010549)	黒崎字大屋洞	駐車場造成工事	18	古代須恵器、古代土師器
黒崎大屋 (2010549) *	黒崎字大屋洞	桂町ブロック設 置工事	5	道跡なし
黒崎大屋 (2010549) *	黒崎	上下水道工事	73	古代須恵器、古代土師器、江戸陶器
黒崎大屋 (2010549) *	黒崎	市道黒崎29号線 改良工事	289.96	中世自然流水路／中世土師器、中世須戸美濃
黒崎種田 (2010550)	黒崎字寺田割 黒崎種田	個人住宅建築 個人住宅建築 駐車場造成工事	550 289.96 660	江戸伊万里、江戸陶器 道跡なし 江戸伊万里、江戸陶器
黒崎種田 (2010550)	黒崎字寺田割 黒崎種田	店舗・倉庫建築 個人住宅建築 駐車場造成工事	3,011.9 159.83 430	道跡なし 道跡なし 道跡なし
八日町 (2010651)	八日町	市町計画道路西 端造成工事	896	道跡なし
今泉城跡 (2010552)	今泉	駐車場造成工事	506	道跡なし
朝葉町島ノ木 (2010555)	朝葉町字坂ノ下 洞	宅地造成工事	1,418	平安溝、平安土坑、平安ビット／古墳(後)須恵器、平安須 恵器、平安土師器
朝葉町島ノ木 *	朝葉町	公園施設整備工事	68	古代土坑、古代溝／古代土師器、古代須恵器、江戸陶磁器
朝葉町島ノ木 *	朝葉町	公園施設整備工事	4	古代土坑、古代須恵器
上野井田(2010657) * 本郷進木(2010661)	上野井田 本郷進木	広告板設置工事 分譲宅地造成工事	1,75 8,270	道跡なし 中世土師器
本郷水上(2010562)	本郷町水上	共同住宅建築	344	道跡なし
上新保(2010564)	上新保	個人住宅建築	311.75	古代ビット／古代土師器
木田中川(2010565)	木田	個人住宅建築	271	道跡なし
南部Ⅰ(2010636)	鶴中町高日附	個人住宅建築	784.61	道跡なし
南部Ⅰ(2010636)	鶴中町高日附	個人住宅建築	396	道跡なし
原尾Ⅱ・小倉中 筋(2010639)	鶴中町小倉	個人住宅建築	430.16	道跡なし
中名V(2010649)	鶴中町名字北浦	個人住宅建築	990	中世井戸、中世土坑、中世ビット／古代土師器、中世土師器、 中世溝、中世窓、江戸越中瀬戸、江戸伊万里、江戸唐津
中名V(2010649)	鶴中町名字北浦	個人住宅建築	990	中世井戸、中世土坑、中世ビット／古代土師器、中世土師器、 中世溝、中世窓、江戸越中瀬戸、江戸伊万里、江戸唐津
中名V(2010649)	鶴中町名字北浦 友杉子付ノ内側 (2010653)	個人住宅建築 個人住宅建築	200.05 356	道跡なし 道跡なし
任海宮田(2010670)	任海字宮田割	市道任海1号線改 良工事	32	江戸土師器、江戸越中瀬戸
下熊野(2010672) *	安養寺	羽根50周年記念地区 安養寺地区管渠疏通 工事	201	道跡なし
在帝寺等 (2010669) *	下乗山	市道御寺2号線改 良工事	32	江戸戸河間、江戸越中瀬戸
伊豆宮II(2010676)	栗山	車庫建築	67	道跡なし
下熊野(2010672)	安養寺	羽根50周年記念地区 安養寺地区管渠疏通 工事	673	中世土師器
二俣(2010673) *	二俣	市道二俣7号線改 良工事	285	道跡なし
石田打宮(2010676)	石田字打宮割	個人住宅建築	352	中世土師器
石田打宮	石田字打宮割	個人住宅建築	326.79	道跡なし
恩王寺(2010683)	若竹町6丁目	羽根50周年記念地区 若竹町6丁目地区下 木曾ガ谷菅工事	249.5	道跡なし
若竹町(2010684)	森田字三百石割	公民館建築	2,000	古墳(前)堅穴住居、古墳(前)穴、不明溝／縄文(後)縄文土器、 古墳(前)土師器、平安須恵器、平安土師器、戦国土師器
武尾(2010688) *	上熊野尻尾	市道安養寺上熊野神 外改良工事	95	道跡なし
上熊野(2010689)	上熊野	農機具格納庫建築 個人住宅建築	199	不明溝／なし
小杉古屋敷 (2010690)	石田字打宮割	個人住宅建築	196.85	中世土師器、江戸越中瀬戸、江戸陶磁器
小杉古屋敷	石田字打宮割	個人住宅建築	59.62	道跡なし
布市北(2010692)	布市	天然ガスパイプ ライン建設工事	53.38	道跡なし
月岡町三丁目 (2010705) *	月岡町3丁目	羽根609月岡整理分区 月岡三丁目地区管渠 疏通工事	730.3	道跡なし
月岡町三丁目 (2010705) *	月岡町3丁目	羽根609月岡整理分区 月岡三丁目地区管渠 疏通工事	721	道跡なし
西番中割B (2010708)	西番字南洞	個人住宅建築	257.93	道跡なし
外輪野池田 (2010719)	福中町外輪野	個人住宅建築	500	道跡なし
外輪野池田 (2010719)	福中町外輪野	個人住宅建築	500	道跡なし
水谷(2010740)	八尾町水谷字縫	個人住宅建築	303.18	道跡なし
黒田(2010744)	八尾町黒田字古	個人住宅建築	276	江戸溝、江戸陶磁器
長山(2010749)	八尾町深谷字長	個人住宅建築	500	道跡なし
新村(2010761)	下久保	春野所建築	1,010	道跡なし

遺跡名(通称)	所在地	調査原因	面積(m ²)	調査結果
上熊野城跡(2010170)	上熊野	個人住宅塗装	908.19	遺跡なし
杉原(2010769)	林崎	丁場塗装	1,256	古代土師器、古代須恵器
江本(2010770)	江本	農機具格納庫建設	376	縄文土器
大井(2010773) *	大井	市道沿青柳町上町 跡外防護改修工事	38	弥生土坑、江戸土坑・弥生(終)土器、江戸越中瓶戸、不明土器
大井(2010773)	中布目	個人住宅塗装	340.35	遺跡なし
中大浦(2010790)	中大浦	市道沿大浦2号線	376	平安須恵器
天ノ平(2010850)	八尾町福島字天ノ平	個人住宅建築	281.32	縄文土器
福島(2010852)	八尾町福島上野	福島保育所移転	9,881.48	遺跡なし
高尾城跡(2010926)	八尾町和山字高ノ上	特別高庄送電線	1,280	中世山城構造面/なし
西坂戸(2010953) (飯野)富山城下町道路主要部 (2011048) *	西坂戸町西町	埋設物調査	4,632	縄文土器、縄文石器、縄文土器、中世土器、中世珠貝、江戸越中瓶戸、江戸伊万里、江戸唐津
計148件(433)			96,463.73	

24年度 補足(3月)

岩瀬天神(201001) *	岩瀬天池町	松浦町清水路新設工事	364.8	縄文～江戸河川跡、縄文(戰)窓穴住居、縄文(戰)窓穴土坑、縄文土坑、弥生土坑/縄文土器、縄文尖頭器、縄文磨石、縄文印石、縄文石器、縄文土器、古代須恵器、中世珠貝、江戸陶磁器
小竹貝環(201105) *	奥羽町北	雄用河川新設治川第12T区改良工事	184.0	縄文(前)窓穴住居、縄文(前)土坑、縄文(前)窓穴/縄文(前)窓穴土坑、縄文(前)磨製石斧、縄文(前)呂呂、縄文(前)右脚、縄文(前)左脚、縄文(前)敲石
草島(201016)	草島	車庫建築工事	34.79	遺跡なし
浜黒崎田谷(201063)	浜黒崎	市道浜黒崎横越	147	遺跡なし
大坂(201063)	大坂	駐車場造成工事	827	遺跡なし
東老田 I (2010908)	東老田	個人住宅建築	66.24	遺跡なし
百村字村 V (2010909)	百村字村番	造成・整備・道路	151	古代土師器、古代須恵器、中世珠貝
武鹿字竹堤(201048)	武鹿町	市道306番新設治川	42.5	遺跡なし
富山城跡(201397) *	本丸	城址公園整備	1,500	江戸土器・含唇・中世かわらけ、中世彌山美濃、江戸陶磁器、江戸河原
富山城跡(201397)	總曲輪2丁目	個人住宅建築	172.75	安土桃山～江戸土坑、安土桃山～江戸土坑、明治土坑/安土桃山土器、江戸土器、江戸越中瓶戸、江戸伊万里
中世山城推定地(201398)	千石町4丁目	個人住宅建築	578.57	遺跡なし
中世山城推定地(201398)	千石町4丁目	埋設物調査	724.89	縄文土、戰国土坑、戰国窓穴、江戸土坑。江戸穴、江戸溝、縄文土器、戰国中世土器、戰国中世土器、江戸土器、江戸越中瓶戸、江戸伊万里、江戸唐津、江戸陶磁器、明治陶磁器
新庄城跡(201403) *	新庄町1丁目	新庄小学校大規模改修工事に伴う給排水管敷設	114.58	中世以前窓穴、江戸以前窓穴、江戸以前石井、古代土師器、明治中世土器、江戸以前窗口、江戸以前鉢洋、江戸以前石井、江戸中世窓穴、戰国刀器、近代陶磁器
新潟町島ノ本(201404)	新潟町島ノ本	分譲宅地造成工事	2,533.46	古代土器
大田中田 I (201401)	大田	個人住宅建築	285.62	遺跡なし
木戸水上(201406)	木戸町	共同住宅建築工事	734.62	遺跡なし
河原(201525)	瑞泉西町	個人住宅建築	202.98	遺跡なし
下高野(201528)	安養寺	駐車場造成工事	1,114.00	遺跡なし
鶴見(201531)	鶴見字田舎割	個人住宅建築	502	遺跡なし
合倉家	寺家	個人住宅建築	3,486.00	遺跡なし
持田(362116)	端町持田	宅地造成工事	548.62	中世土器、中世青白磁、江戸陶器、不明金剛器

II 遺跡地図管理

富山市内の埋蔵文化財包蔵地の総数は1,048か所、総面積は73.32k m²です(平成26年3月現在)。これは市域1,241.85k m²の約5.90%にあたります。これらの埋蔵文化財包蔵地は遺跡地図に搭載され、埋蔵文化財センターをはじめ、市の開発部局、市立図書館、各教育行政センターで閲覧することができます。

(1) 地区ごとの遺跡数・面積

地区	遺跡数	他の地区にまたがる遺跡数	遺跡面積(m ²)
富山	604	大沢野(2)、婦中(8)、大山(1)	29,887,439
大沢野	89	富山(2)、大山(1)、細入(1)	3,122,130
大山	84	富山(1)、大沢野(1)	29,771,605
八尾	93	婦中(7)、山田(2)	3,134,630
婦中	147	富山(8)、八尾(7)、山田(2)	5,211,860
山田	19	八尾(2)、婦中(2)	184,020
細入	36	大沢野(1)	2,009,050
計	1,048 遺跡		73,320,734

(2) 平成 25 年度の埋蔵文化財包蔵地の新規登録

No.	遺跡	所在地	種別	面積 (m ²)	時代
1	(仮称)富山城下町遺跡主要部 (2011048)	西町、続曲輪三丁目、一番町、越前町、旅籠町、平吹町、桃井町一丁目	集落	61,600	江戸

(3) 平成 25 年度の埋蔵文化財包蔵地の範囲変更等

No.	遺跡	面積 (m ²)	時代
1	総曲輪 (2010443)	272,000	南東側に範囲拡大
2	北代村巻 V (2010198)	17,700	北西側に範囲拡大
3	四方背戸割 (2010027)	110,500	東側に範囲拡大
4	小長谷 (2010858)	30,000	南東側に範囲拡大
5	新庄城跡 (2010449)	44,800	南東側に範囲拡大

III 史跡の保護・管理

1 北代縄文広場

(1) 管理

① 管理運営委託等

A 管理運営

地元の長岡地区自治振興会に広場の管理運営を委託しました。振興会が配置した管理人と北代縄文広場ボランティアの会の会員が常駐し、広場の管理や展示解説、体験学習のお手伝いなどを行いました。

B 環境整備

広場の草刈、堅穴住居の燃し、樹木の雪吊りなどは公益社団法人富山市シルバー人材センターに委託しました。

C ボランティア研修

北代遺跡について、新人ボランティアを対象に研修しました。 平成 26 年 3 月 14 日

② 復元高床倉庫説明会

平成 24 年度に修理工事を行った復元高床倉庫について、長寿命化に向けて改良した内容等を説明しました。 平成 25 年 4 月 20 日

③ 観察

文化庁文化財部記念物課整備部門 中井將胤文化財調査官（平成 25 年 9 月 26～27 日）

④ 社会に学ぶ 14 歳の挑戦

広場管理運営・展示および解説補助・土器づくり体験指導補助等（ボランティア等指導）

新庄中学校（4 名） 平成 25 年 7 月 9 日～7 月 10 日

呉羽中学校（5 名） 平成 25 年 10 月 1 日～10 月 5 日

⑤ その他

・平成 24 年度に寄付を受けた広場敷地等について、整地等を行いました。

・「越中富山ふるさとチャレンジ」（同実行委員会）のスタンプラリーに協力しました。

平成 25 年 4 月 1 日～9 月 30 日

（2）ミニ企画展

	テーマ	期間	主要展示品	入場者数	展示解説会
1	大山地域の縄文遺跡(3) 花切西遺跡	平成25年1月31日 ～7月5日	縄文土器、土偶、打製石斧、磨製石斧、回石、擦石、石皿、筋砥石、剥片、石刀、大珠、原石、タカラ貝形土器品ほか	3,550人	平成25年2月6日

	テーマ	期間	主要展示品	入場者数	展示解説会
2	富山地域の縄文遺跡(4) 平岡遺跡	平成25年7月9日 ～平成26年1月26日	縄文土器、珠状耳飾、珠状耳飾未成品、垂飾、石飾、石匙、石錐、丸玉、磨製石斧、石皿ほか	4,709人	平成25年8月18日
3	富山地域の縄文遺跡(5) 豊田大塚・中吉原遺跡	平成26年1月30日 ～3月30日	縄文土器、土偶、御物石器、石刀、垂飾、打製石斧、磨製石斧、石鏃、剥片、石核ほか	164人 (2月未現在)	平成26年1月30日

(3)施設老朽化対策事業

広場のオープンから14年が経過し、復元建物（土屋根竪穴住居・茅葺高床倉庫）などが老朽化しています。そこで、平成22年度から国・県の指導の下、復元建物等の長寿寿命化を目的とした改修工事を6ヶ年計画で実施しています。

事業では、建築学・鉱物科学・林産加工学・

木材物理学・保存科学・考古学の専門家からなる史跡北代遺跡復元建物修理検討専門家会議を組織し、会議の検討結果を踏まえて修理工事を実施しています。土屋根竪穴住居の建築・維持管理（修理）の標準設計・仕様として発信することも目指しています。平成25年度は、次の①～④の修理等を行いました。

① 復元建物等修理工事

A 復元建物6（竪穴住居） 主柱や垂木、小舞などに用いるクリ丸太材を調達し、樹皮剥ぎと加工、十分な乾燥を行ったうえで木材保存剤を塗布しました。クリ・スギ樹皮は薫品薰蒸を行い、今後予定している上屋復元の準備を行いました。丸太材が水分を含んだまま上屋を組み上げると、将来の歪みの要因となるため、丸太材等の調達・加工・乾燥等に約1年の期間をかけました。

B 広場案内サイン 縄文広場には史跡北代遺跡や復元建物を解説した案内サインが4ヶ所に設置されています。このうち、長年の風雨等による傷みが激しい3ヶ所について、劣化した胸板を新しく取り替えました。

C 広場外周金網柵・木柵 縄文広場は縄文時代のロマンを感じるとともに、復元建物や出土品の見学や縄文土器づくりなどの体験を通して縄文時代を学習できる場となるよう、木材を多用して整備されました。木柵や金網柵支柱の木材は土中の木材腐朽菌や木材加害昆虫によって劣化し、倒壊等の状況にあったため、金属柵に取替えました。

②復元建物屋根試験体設置 平成26年度に修理工事を予定している復元建物6（竪穴住居）の土屋根は、第70号住居の発掘調査所



クリ丸太材の加工作業



広場案内サイン



金属柵

見に基づいて赤土で復元する方向性の下で施工方法等を検討しています。

そのため、屋根土の流出等を防ぐための施工方法、砂などとの混合比率の検証作業を目的に、試験体を設置して日差しや降水、凍結、積雪、融雪などの気象変化を経た経過観察を行いました。今後も継続する経過観察を経て、最適な資材・調合・施工法を選定する予定です。

③史跡北代遺跡復元建物修理検討専門家会議

A 平成 25 年 6 月 28 日(屋根検討部会) 復元建物 6 の土屋根の施工方法、その検討に供

するために設置する屋根試験体の構造について、建築学・鉱物科学・考古学の専門家による検討を行いました。

B 平成 25 年 9 月 27 日 復元建物 6 の修理方法、および事業報告書作成の視点や内容について検討を行いました。後者については細部を次回会議で詰めることとしました。オブザーバー参加いただいた文化庁記念物課整備部門の中井文化財調査官からは、活用やその後の再整備を含めて全国的に問題が山積する史跡整備において、史跡北代遺跡(富山市北代縄文広場)のように課題解決を目的とした試験や分析に基づき再整備を目指す事例は前例がないので、試験等から成果を導き出して改良を加えた再整備の実践例を全国的に活用できる内容の事業報告書として発信して欲しいとのお言葉をいただきました。



屋根試験体設置状況

専門家会議委員(敬称略)

氏名	分野	備考
宮野 秋彦	建築学	名古屋工業大学名誉教授
清水 正明	鉱物科学	富山大学理学部長・教授
藤井 義久	林産加工学	京都大学大学院農学研究科教授
宮野 則彦	木材物理学	日本大学生物資源科学部准教授
佐野 千絵	文化財保存学	(独)国立文化財機構東京文化財研究所 保存修復科学センター保存科学研究室長
西井 龍儀	考古学	富山考古学会会長

④復元建物 1・2・3・5(竪穴住居)環境調査—屋内温湿度計測、土間温湿度計測—

専門家会議委員の宮野秋彦氏・宮野則彦氏により、屋内温湿度と土間温湿度の定時観測(1時間ごと)を継続しています。

(4)長岡地区行事等

①長岡地区自治振興会

縄文朝市(平成 25 年 5 月~11 月の第 2・4 土曜日、全 12 回)

北代縄文サマーフェスタ(平成 25 年 8 月 18 日、市教委と共に催)

②長岡地区ふるさとづくり推進協議会

縄文冬まつり(平成 26 年 1 月 18 日)

③北代三区町内会

北代三区住民納涼大会(平成 25 年 8 月 3 日)

(5) 入場者数

年度	個人	団体	合計	土器づくり体験
23	7,273人	976人	8,249人	861人
24	6,450人	920人	7,370人	574人
25 (26年2月末現在)	6,364人	1,249人	7,613人	368人

(参考)平成11年4月～26年2月末の累計人數 133,824人

2 安田城跡歴史の広場

(1) 管理

①管理

管理人1名が常駐し、資料館及び広場の管理や来場者への案内・解説を行いました。

清掃業務及び広場の環境整備（芝刈・樹木剪定・除草）は、公益社団法人富山市シルバーパートナーズセンター及び財団法人富山市婦中公園緑地管理公社に委託して実施しました。

②視察

文化庁文化財部記念物課整備部門 中井将嵐文化財調査官（平成25年9月27日）

③社会に学ぶ 14歳の挑戦

新庄中学校（4名） 平成25年7月11日、12日 広場管理運営補助

④その他

「越中富山ふるさとチャレンジ」（同実行委員会）のスタンプラリーに協力しました。

平成25年4月1日～9月30日

(2) 展示

①ミニ企画展

テーマ	期間	主要展示品	入場者数(人)	展示解説会
1 富山市の中世集落 (6)金屋南遺跡	平成25年2月19日～平成26年3月30日	鎧型、漆器、馬具、提子、鏡、太刀部品、中世土師器、瓦器、鉄鍋、溶解炉、下駄ほか	16,415 (2月末現在)	平成25年2月19日

②佐伯哲也氏 繩張り図展

テーマ	期間	主要展示品	入場者数(人)	展示解説会
1 安田城を彩った武将たちの城	平成25年5月8日～9月16日	縄張図32点（白鳥城、城生城ほか）	10,434	平成25年6月21日
2 越中戦国史を彩った武将たちの城	平成25年10月1日～平成26年3月30日	縄張図32点（増山城、松倉城ほか）	2,975 (2月末現在)	平成25年10月25日

③自主事業

①「安田城跡歴史の広場 20周年記念－戦国の世・

佐々成政攻めの城をめぐる－」

平成25年5月19日 131名

②夏休み企画「お城をもっと楽しもう！～ペーパークラフト作製体験（富山城櫓御門）～」

平成25年8月9日 32名

④地元行事

「第21回安田城月見の宴」（安田城月見の宴実行委員会主催）平成25年8月24日 荒天中止



佐伯哲也氏縄張り図展

(5) 入場者数

(人)

年度	個人	団体	合計
23	8,487	3,388	11,875
24	8,550	3,439	11,989
25 (26年2月末現在)	14,548	1,306	15,854

(参考)平成5~26年度2月末の累計人数 158,240人

3 史跡王塚・千坊山遺跡群

(1) 公有化事業

弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡と墳墓の計7ヶ所で構成される史跡王塚・千坊山遺跡群（王塚古墳・勅使塚古墳・千坊山遺跡・六治古塚墳墓・向野塚墳墓・富崎墳墓群・富崎千里古墳群）では、平成23年度から公有化事業に着手しています。

平成25年度は、千坊山遺跡の一部6,553.96m²（2月末現在）の公有化を行いました。これまでの公有化面積の累計は39,978.43m²（66%）です。

【全体計画】

遺跡名	公有化面積（m ² ）	筆数	地権者数（人）
千坊山遺跡、勅使塚古墳・六治古塚墳墓・向野塚墳墓・富崎墳墓群・富崎千里古墳群	59,943.66	246	91

【公有化進捗状況】

年度	遺跡名	公有化面積（m ² ）	筆数	地権者数（人）
23	千坊山遺跡	1,067.00	12	7
	六治古塚墳墓	1,416.29	6	
	小計	2,483.29	18	
24	千坊山遺跡	22,904.18	96	23
	勅使塚古墳	8,037.00	7	
	小計	30,941.18	103	
25	千坊山遺跡	6,553.96	34	19
	合計	39,978.43	155	49

(2) 維持・管理

①除草管理

千坊山遺跡・六治古塚墳墓・勅使塚古墳（公有地部分35,704m²）草刈1回

千坊山遺跡内古里小学校旧運動場（6,299m²）

古里小学校PTAによる草刈1回

②千坊山遺跡樹木伐採

千坊山遺跡の東斜面の杉高木が住宅に近いため、倒木被害を防ぐ目的で伐採しました。

伐採後はチップにし、通路に敷いて歩きやすくしました。

③暴風被害対策

千坊山遺跡北側進入路上の暴風による倒木1本を伐採・搬出・処理しました。



千坊山遺跡の通路チップ敷設状況

4 県・市指定史跡等管理等

(1) 国・県指定

①文化財パトロール

富山県が委嘱した文化財保護指導委員(富山市域5人)による定期的な国・県指定文化財、埋蔵文化財等の状況調査

区別	名 称	保護の意見等
史跡	北代遺跡	なし
埋蔵文化財包蔵地	八町遺跡、規ヶ森貝塚、小竹貝塚、富山城、古沢塚山古墳、清水堂古墳、小出城跡、宮塚古墳、若王子塚古墳、高来遺跡、野田遺跡、大村城跡、水橋荒町・辻ヶ堂遺跡、そうけ塚、日方江城跡	なし

(2) 市指定等

①除草

堀I遺跡(7・8月)、押上遺跡・栗山塚(5月)、古沢塚山古墳・境野新遺跡(6月)

②文化財案内板設置(生涯学習課実施)

平成25年10月 大道城の解説文作成

平成26年3月 牛滑遺跡の解説文作成

IV 展示・普及

1 兼務関係施設企画展等

(1) 大山歴史民俗資料館(大山教育行政センター所管: 学芸員兼務)

テーマ	期間	主要展示品	入場者数
世界の民俗 一バヌアツ共和国	平成25年8月10日～12月15日(128日間)	カスタムマット、タスカ、アイランドドレス、タムタム(工芸品)	988人
播磨一信仰登山に生きた生涯と川内道場再興	平成25年11月19日～平成26年3月23日(125日間)	諸宗皆祖念佛正義論、槍ヶ岳登頂喜びの手紙、六字名号軸、播磨肖像画、槍ヶ岳絵図、法衣	330人(2月末現在)

(2) 考古資料館(民俗民芸村所管: 学芸員兼務)

テーマ	期間	主要展示品	入場者数
遺跡にみる地震のあと	平成25年8月31日～9月29日(30日間)	打出遺跡、南部I遺跡、小出城跡等、6遺跡で見つかった液状化や断層の写真パネル	837人

3 遺跡発掘調査現地説明会

(1) 新庄城跡

平成25年12月7日(土)

参加者数250名

新庄小学校内発掘調査現場



(2) 富山城下町

平成26年2月11日(火・祝)

参加者数400名

一番町地内で検出した背割水路を

公開しました。城下町の発掘調査成果を現地公開したのは初めてです。

現地説明会のようす

4 富山城ツアー

平成 21 年度から開始した富山城石垣ツアーは、平成 23 年度から「富山城ツアー」と名称変更し、郷土博物館と提携して、より分かりやすい内容にしました。

5 年目の今年は、戦国期から明治期までの富山城を時代ごとに解説しました。「実際に石垣や現地を見ながら話を聞くと、とてもわかりやすかった」などの感想をいただき、たいへん好評でした。

【解説担当】

(郷土博物館) 坂森幹浩専門学芸員・萩原大輔学芸員・浦畠奈津子嘱託

(埋蔵文化財センター) 近藤顕子主査学芸員・鹿島昌也主査学芸員・野垣好史主任学芸員

●25年度富山城ツアーの実績

回数	月日	主な説明場所	参加人數
1	6月5日	鉄門石垣、西ノ丸の明治期の施設と発掘成果	90人
2	8月21日	鉄門石垣、土壘と堀、千歳御門・千歳御殿、搦手石垣	40人
3	10月2日	石垣石材置場、鉄門石垣、前田利長期の富山城	60人
4	11月6日	鉄門石垣、戦国期の富山城、搦手石垣、築堤	65人
計			255人



富山城ツアーのようす

5 講座

(1) 富山市民大学（市民学習センター主催）

①富山・お墓の考古学

回	講師	学習題	開催月日
1	古川知明所長	お墓と供養の歴史	5月7日
2	堀内大介主査学芸員	縄文時代の墓制	5月21日
3	大野英子主査学芸員	弥生墳墓が示す日本海交流	6月4日
4	鹿島昌也主査学芸員	富山平野の首長墓	6月18日
5	小黒智久主査学芸員	ヤマト政権の政権交代と越中の中期古墳	7月2日
6	細辻嘉門主査学芸員	首長の墓から家族の墓へ	9月10日
7	近藤顕子主査学芸員	古代～中世のお墓	9月24日
8	中本八穂主査学芸員	近世の宗教思想とお墓	10月8日
9	野垣好史主任学芸員	現地学習 富山藩主のお墓	10月22日
10	古川知明所長	近世石工と墓石	11月12日

(2) 富山市民大学 プラネット (婦中ふれあい館)

婦負の歴史探訪－婦負を知ろう－

4	木本秀樹安田城跡資料館管理人	婦負の遺跡探訪(2) 安田城跡	10月9日
---	----------------	-----------------	-------

(2) 市役所出前講座

遺跡からみた富山の歴史

回	講師	演題	主催者・会場	参加者数	月日
1	野垣好史主任 学芸員	発掘された富山城と 富山城下	八人町地区長寿会連合会 ／八人町公民館	17	6月19日
2	古川知明所長	北畠山各願寺の宝篋 印塔	古里地区観光協会／ かんばの宿富山	35	6月20日
3	古川知明所長	富山城発掘の成果	富山インターネット市民 塾／タワー111	60	9月28日
4	小黒智久主査 学芸員	ふるさと歩こう会 2013	古里地区ふるさとづくり 推進協議会／婦中ふるさ と自然公園	35	10月5日
5	鹿島昌也主査 学芸員	まちなかの最新の発 掘成果から	西田地方校下ふるさとづ くり推進協議会／富山市 西田地方公民館	42	11月28 日
6	古川知明所長	岩瀬湊を考える	日本海悠学会／まる十	30	12月4日
7	堀内大介主査 学芸員	富山市新庄城跡発掘 調査報告	富山考古学会／富山市民 プラザ	40	1月25日
8	堀内大介主査 学芸員	富山市新庄城跡発掘 調査報告	新庄小学校5年生／新庄 小学校	102	3月4日
9	古川知明所長	富山城・城下町の発 掘成果	姉倉比賣神社76社奉賛 会／富山観光ホテル	250	3月8日
10	中本八穂主査 学芸員	五福地区の歴史	五福第二壮寿会／五福2 区公民館	25	3月11日
11	近藤顯子主査 学芸員	埋蔵文化財の取り扱 いについて	公益法人富山県宅地建物 取引業協会富山支部／富 山県不動産会館	100	3月27日

(3) その他講座

古川知明 富山大学教養講座とやま学—近世富山の史料— 講義「北陸街道をめぐって」
平成25年6月17日 富山大学人間発達科学部 11人

古川知明 城と庭の探求講座：金沢城大学 講義「富山城の石垣と石切丁場」 平成26
年2月20日 石川県立美術館 200人

6 その他

(1) 社会に学ぶ 14歳の挑戦

新庄中学校(4名) 平成25年7月8日～7月12日

〔業務〕 図書整理・出土品整理・北代縄文広場管理・安田城跡歴史の広場管理

(2) マスコミ

- ① 富山シティエフエム・越中むかしものがたり 「安田城跡」7月3日～31日 大野
- ② 富山シティエフエム・越中むかしものがたり 「北代縄文広場」(全4回) 平成26年2
月5日～3月2日 小黒

V 刊行物

1 発掘調査報告書

No.58 富山市豊田大塚・中吉原遺跡発掘調査報告書(2013.7)

No.59 富山市小竹貝塚発掘調査報告書(2013.12)

- No.60 富山市内遺跡発掘調査概要 X(2014,2)
 No.61 富山市内遺跡発掘調査概要 XI (2014,3)
 No.62 富山市内遺跡発掘調査概要 XII (2014,3)
 No.63 富山市黒瀬大屋遺跡発掘調査報告書(2014,3)
 No.64 富山市四方荒屋遺跡発掘調査報告書(2014,3)
 No.65 富山市朝菜町鳥ノ木遺跡発掘調査報告書(2014,3)
 No.66 富山城下町主要部遺跡発掘調査報告書(2014,3)
 No.67 富山市新庄城跡発掘調査概報(2014,3)
 No.68 富山市内遺跡発掘調査概要 XIII(2014,3)
 No.69 富山市内石造物等調査報告書III(2014,3)

2 PR誌・展示図録等

- 富山市の遺跡物語 No.15 富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報 (2014,3)
 北代縄文通信 第37号 (2013,10)
 北代縄文通信 第38号 (2014,3)

VI 活用

1 出土品貸出

貸出先	展示名	展示期間	資料名
1 野尻湖ナウマンゾウ博物館	夏季特別展「旅する旧石器—3万年前の石斧の文化のひろがり」展	25,7,19 ～25,11,30	富山市内出土斧形石器 3点
2 富山市陶芸館	企画展「越中瀬戸焼—新たな息吹—」展	25,7,20 ～25,11,4	清水堂南遺跡 10点、水橋金広・中馬場遺跡 6点、富山城下町遺跡 28点
3 富山県埋蔵文化財センター	ふれる標本箱	25,4,1 ～26,3,31	岩瀬天神遺跡ほか市内遺跡出土土器片 30点
4 富山県埋蔵文化財センター	特別展「わざわいが遺した歴史」展	25,10,2 ～12,5	南部I遺跡 8点、打出遺跡 5点
5 富山県埋蔵文化財センター	企画展「古墳時代のとやま」展	25,12,16 ～26,3,27	百塚住吉遺跡 5点
6 氷見市立博物館	特別展「雨を乞う—豊作への願い—」展	26,2,28 ～3,23	吳羽モグラ池遺跡 1点、柄谷南遺跡 1点

2 資料調査等

- (1)平成25年7月3日 富山県文化振興財團埋蔵文化財調査事務所 町田尚美氏 西金屋窯跡出土円面鏡調査（対応者 鹿島主査学芸員）
 (2)平成25年10月24・29日 土木学会 貴堂巖氏 旧県会議事堂跡地の発掘調査について（対応者 鹿島主査学芸員）

VII 調査研究

1 調査

- (1)史跡直坂遺跡、直坂II遺跡旧石器採集地点分布図作成 平成25年3月（西井龍儀、亀田正夫、古川）
 (2)秋吉地内旧正西寺墓地出土墓石・骨蔵器調査 平成25年3月～5月（古川、納屋内）
 (3)泉町2丁目金刀比羅神社燈籠調査 平成25年4月（古川）

- (4)船岡山帝龍寺宝篋印塔調査 平成 25 年 5 月 (古川)
- (5)黒部市倉田邸庭園雪見燈籠調査 平成 25 年 5 月～6 月 (古川)
- (6)稻荷町富山稻荷神社「お化け燈籠」調査 平成 25 年 5 月～6 月 (古川)
- (7)稻荷山海津寺宝篋印塔調査 平成 25 年 5 月～7 月 (古川)
- (8)芹谷山千光寺宝篋印塔調査 平成 25 年 7 月 (古川)
- (9)立本山刀尾寺宝篋印塔調査 平成 25 年 7 月～8 月 (古川)
- (10)十二王山吉祥寺宝篋印塔の調査 平成 25 年 8 月 (古川)
- (11)射水市海翁寺経碑（一字一石塔）の調査 平成 25 年 8 月～11 月 (古川)
- (12)立山町柄津親鸞上人分骨堂前燈籠の調査 平成 25 年 9 月～11 月 (古川)
- (13)日俣地先常願寺川河川敷出土墓石・骨蔵器調査 平成 25 年 10 月 30 日 (古川)

2 論文・報告・紹介

富山市内の遺跡に関連するものを含みます。

- 青山博樹 2013,12 「桜町遺跡をどう考えるか」『東北南部における弥生後期から古墳出現前夜の社会変動—福島県湯川村桜町遺跡資料見学・検討会—予稿集』 弥生時代研究会
- 小黒智久 2013,5 「造構・遺物をとおしてみた若狭・越 横穴式石室」『若狭・越（北陸）の古墳時代』別冊季刊考古学第 19 号 雄山閣
- 小黒智久 2013,10 「分科会IV 5 世紀の古墳から文化交流を考える 北陸地方の様相」『一般社団法人日本考古学協会 2013 年度大会 研究発表要旨』 一般社団法人日本考古学協会
- 小黒智久 2013,10 「分科会IV 5 世紀の古墳から文化交流を考える 北陸地方の様相」『一般社団法人日本考古学協会 2013 年度長野大会研究発表資料集 文化的十字路 信州』 日本考古学協会 2013 年度長野大会実行委員会
- 小黒智久 2013,11 「蒲原平野の古墳雑感」『新潟県考古学会連絡紙』第 98 号 新潟県考古学会
- 小黒智久 2013,12 「追悼 甘粕 健先生」「教育者 甘粕 健」『東北・関東前方後円墳研究会 連絡誌』第 36 号 東北・関東前方後円墳研究会
- 小黒智久・酒井英男・菅頭明日香 2014,1 「堅穴住居上屋土壤の火災による落下状況を残留磁化から探る研究」『情報考古学』第 19 卷 1・2 合併号 日本情報考古学会
- 高岡 徹 2014,3 「戦国期における新庄城と武将の群像」『富山市考古資料館紀要』第 33 号 富山市考古資料館
- 中村由克 2014,3 「富山市域の旧石器時代石斧の石材」『富山市考古資料館紀要』第 33 号 富山市考古資料館
- 野垣好史 2013,5 「造構・遺物をとおしてみた若狭・越 装飾付大刀」『若狭・越（北陸）の古墳時代』別冊季刊考古学第 19 号 雄山閣
- 野垣好史 2013,5 「2012 年の考古学会の動向 古墳時代 北陸」『月刊考古学ジャーナル』642 号 ニューサイエンス社
- 野垣好史 2014,3 「吉野銀山分布調査報告—富山市域における鉱山遺跡の調査報告(2)ー」『富山市考古資料館紀要』第 33 号 富山市考古資料館
- 藤田富士夫 2013,2 「万葉集の「妹背山」に関する若干の考察」『Bulletin of Keiwa College』 No.22
- 藤田富士夫 2013,3 「飛驒における纏向型前方後円墳の可能性—三日町大塚古墳の検討—」『飛驒と考古学III』飛驒考古学会
- 藤田富士夫 2013,3 「琰状耳飾研究の展望」『玉文化』第 10 号 日本玉文化研究会
- 藤田富士夫 2013,5 「琰飾の出土状態を実験考古学から考える」『考古学論究』第 15 号 立正大学考古学会
- 藤田富士夫 2013,5 「万葉集「立山賦」の「蒂ばせる」景に関する実景論的考察」『敬和学園

大学人文社会科学研究所年報』No.11

- 藤田富士夫 2013.6 「縄文ランドスケープ 第4回極楽寺遺跡」『ジョーモネスクジャパン』Vol.7
NPO 法人ジョーモネスクジャパン
- 藤田富士夫 2013.6 「勾玉とは何か～その起源と形の変化～」『形の科学会誌』第28卷第1号
形の科学会
- 藤田富士夫 2013.6 「『万葉集』『草付』歌についての野外からの一所見」『野外調査研究所報告』第19・20合併号 NPO 法人野外調査研究所
- 藤田富士夫 2013.11 「玉文化研究の現状と課題」『開館15周年記念特別企画展記念シンポジウム 玉の魅力に迫る 資料集』徳島市立考古資料館
- 藤田富士夫 2013.11 「石製装身具総論」『公開シンポジウム 縄文時代装身具の考古学』早稲田大学先史考古学研究所
- 藤田富士夫 2013.11 「日本海文化から見た「国引き神話」の世界」『現代思想 総特集出雲』第41卷第16号
- 藤田富士夫 2013.12 「日本海文化シンポジウムと森古代学」『古代学研究』第200号 古代学研究会
- 藤田富士夫 2014.2 「書評 『若狭と越の古墳時代』」『季刊考古学』第126号 雄山閣
- 藤田富士夫(編著) 2014.2 『喚起泉連縁の世界—もう一つの越中旧事記—』雄山閣
- 古川知明 2013.3 「常願寺川石工北野基藏について」『大境』第32号 富山考古学会
- 古川知明 2013.5 「富山県地方史研究の動向 考古学関係」『信濃』第65卷第6号 信濃史学会
- 古川知明 2013.12 「日本海城の下呂石の流通」『石器石材のつどい 第2回 シンポジウム「富山の石材と玉髓・碧玉」予稿集』
- 古川知明 2014.3 「常願寺川石工親成について」『大境』第33号 富山考古学会
- 古川知明 2014.3 『富山城の縄張と城下町の構造』桂書房
- 宮野秋彦・宮野則彦・古川知明 2013.7 「越中八尾の本法寺における所蔵文化財の保存環境の改修 第2報」『日本文化財科学会第30回大会研究発表要旨集』

3 講演・研究発表

富山市内の遺跡に関連するものを含みます。

- 小黒智久 「北陸地方の様相」一般社団法人日本考古学協会 2013年度大会研究発表分科会IV「5世紀の古墳から文化交流を考える」 平成25年10月20日 長野市若里市民文化ホール
- 小黒智久 第19回東北・関東前方後円墳研究会大会《シンポジウム》古墳築造周縁域における古墳時代前・中期の社会と地域間関係 コーディネーター 平成26年1月15・16日 新潟市歴史博物館
- 小黒智久・酒井英男・菅頭明日香 「焼土の磁化から探る焼失竪穴住居跡・土屋根の落下状況の研究」日本情報考古学会第31回大会研究発表 10 平成25年9月29日 鹿児島国際大学
- 納屋内高史 「富山城城下町出土の貝類」富山貝類同好会総会 平成26年3月2日 富山市科学博物館多目的学習室A
- 藤田富士夫 「勾玉とは何か～その起源と形の変化～」平成25年6月22日 糸魚川市フォッサマグナミュージアム
- 藤田富士夫 「玉文化研究の現状と課題」平成25年11月10日 徳島市立考古資料館
- 藤田富士夫 「石製装身具総論」平成25年11月17日 早稲田大学戸山キャンパス39号館
- 藤田富士夫 「日本海学シンポジウム 海がつなぐ日本海文化」 平成25年12月7日 北日本新聞ホール

藤田富士夫 「”数”を数える绳文人」 第6回クリスマスレクチャーin須坂 2013 平成25年

12月17日 長野県須坂市シルキーホール

藤田富士夫「おまじないの歴史と文化について」平成26年3月14日 滑川東地区公民館

古川知明 「近世常願寺川石工の石造物について」富山考古学会平成25年度第2回例会 平成

25年9月14日 上市町弓の里歴史文化館

古川知明 「日本海城における下呂石の流通」石器石材のつどい第2回 平成25年12月14日

富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

VIII 研修等参加

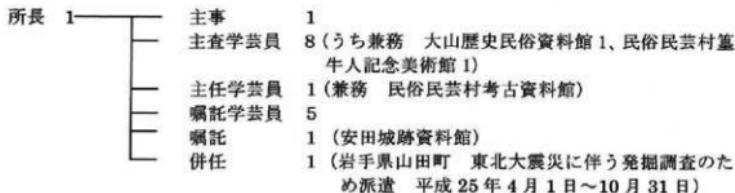
- 1 平成25年度全史協北信越地区協議会研修会 古川所長・小黒主査学芸員 石川県金沢市
平成25年7月18日
- 2 平成25年度第1回埋蔵文化財担当職員等講習会 堀内主査学芸員 岐阜県図書館 平成
25年9月10日～9月11日
- 3 平成25年度第2回埋蔵文化財担当職員等講習会 小黒主査学芸員 栃木県総合文化セン
ター 平成26年2月5日～2月6日
- 4 平成25年度埋蔵文化財発掘調査専門職員等研修会 中本主査学芸員・鹿島主査学芸員・
小黒主査学芸員・堀内主査学芸員・野垣主任学芸員 富山県埋蔵文化財センター 平成26
年2月13日

IX 寄贈

- 1 平井一雄氏 考古資料11点（平成25年9月3日受入）
- 2 旭雅子氏 考古資料685点（平成25年12月26日受入）

X 組織・事業費

1 組織



2 事業費

総経費	160,438千円
①埋蔵文化財調査事業費	33,263千円
(内訳) 埋蔵文化財調査費	17,147千円
普及事業費	159千円
施設管理事務費	15,957千円
②文化財保護事業費	42,677千円
(内訳) 文化財保護事業費	13,310千円
施設老朽化対策費	6,532千円
史跡公有化事業費	22,835千円
③一般管理事務費	84,498千円

寄贈品1 平井一雄氏寄贈資料

1 経緯

平井一雄氏は富山の代表的な石仏研究家です。平井氏の友人であった故前田勲氏（富山市塩）が生前自宅付近で土器・石器を採集され、逝去後ご遺族から譲り受けられたものです。

前田勲氏は農業を営んでおられ、その範囲は塩地区を中心に、中大久保・福居地区に及んでいました。この農業の傍ら、目についた打製石斧を中心に行われたようです。平井氏から本市の学術資料としてこのたび寄贈を受けました。

2 寄贈品の概要

内訳は、縄文土器1点、打製石斧11点の計12点です。

縄文土器は条痕紋があり、縄文晩期のものです。

打製石斧は5点が完形品（写真上段）、4点が破損品、1点が製作途中品（写真右下）です。

完形品と破損品1点の刃先は著しく摩滅しており、土掘り等の作業に使用されたものです。破損品は、使用途中で折れたため廃棄されたものです。形態は、長方形と撥形があります。

石材は、1点が砂岩、10点が安山岩で、安山岩は長石が目立つ神通川上流産のものが多くあります。年代は土器と同じ縄文晩期かそれ以前と推定されます。

3 小結

これらの遺物は、神通川の低位段丘に立地する塩地区周辺で出土したと思われます。この段丘上には、塩遺跡・内A遺跡の2遺跡があり、いずれも縄文晩期の出土品があります。縄文人は肥沃な段丘上において打製石斧で畑を耕し、食糧栽培を行ったと考えられます。（古川）



資料写真（打製石斧・縄文土器）

寄贈品 2 岡崎卯一氏旧蔵資料

1 經緯

富山市出身の岡崎卯一氏は、京都帝国大学で考古学を学ばれ、昭和 14 年卒業後、同大学東方文化研究所助手として昭和 19 年まで 7 回の中国雲崗石窟調査に携わられました。従軍後富山に戻り、八尾中学校、富山中部高校、富山北部高校定時制、雄峰高校教諭を経て、定年後昭和 59 年まで立山町史編纂を手がけられました。この間、富山考古学会の発掘調査や例会発表を多数行われ、会の役職・副会長としてお世話をされました。

本市においては、昭和 41 年から 56 年まで富山市文化財調査審議会委員として文化財保護に携わられ、市内の北代遺跡・小竹貝塚・利波遺跡・牛滑遺跡・番神山横穴墓群・悪王寺遺跡・金草第一古窯跡・古沢遺跡・豊田遺跡等の発掘調査を担当・参加されました。昭和 61 年富山市政表彰を受けられ、平成 3 年 76 歳で逝去されました。先生は、本市のみならず富山県の文化財保護に大きく尽力された方です。

平成 25 年 12 月、ご遺族から、卯一氏が所蔵されていた土器等の受入先について県教委に照会があり、当センターに確認の連絡が入りました。これを受け現物を確認したところ、富山市内出土の遺物が多く確認できたため、本センターにおいて受入れを行ったものです。

2 資料の概要

総数は 685 点です（表 1）。縄文時代から近世に及ぶ土器・陶器・石器・古瓦・金属製品等があります。以下代表的な遺物を紹介します。

(1) 悪王寺遺跡出土品（遺跡番号 2010683、写真 1）

昭和 44 年 11 月に富山市教委が実施した悪王寺遺跡の試掘調査を担当された時の出土品とみられます。調査報告は、『富山考古学会連絡紙』33 号（昭和 44 年 12 月発行）に「富山市悪王寺遺跡（仮称）の試掘」として岡崎卯一氏の名前で掲載されています。土器は縄文後期から晩期のもので、沈線文や条痕文などがあります。大小の打製石斧がこれらに伴います。土器片を円形に加工した土器片円板も 1 点あります。

このほか、奈良・平安時代の須恵器があり、送風用のふいごの羽口とみられるものが 2 点あります。この遺跡は縄文時代として知られていましたが、古代

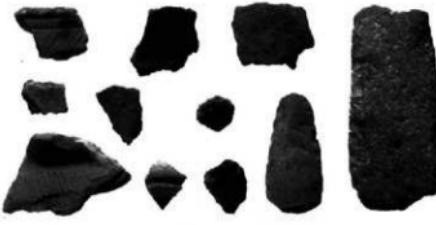


写真 1 悪王寺遺跡出土品



写真 2 利波遺跡出土品

において鍛冶工房が営まれたことが、今回の資料によって新たに分かりました（写真1）。

(2)利波遺跡出土品（遺跡番号 2010019、写真2） 昭和40年9月から富山市教委が行つた発掘調査の出土品とみられます。調査報告は残されていません。利波集落で保管されていた4点の縄文土器・弥生土器は、『富山市考古資料館報』No17（昭和63年3月発行）に「富山市利波遺跡について」（山崎栄）と報告されています。これはこの調査のとき出土したものかもしれません。

土器等は昭和39年5月の新聞紙に包んで小分けしてありました。褐色の鉄分が付着したものが多いものと少ないものがあり、新聞紙毎に出土地点が異なっていたのかもしれません。

遺物には、縄文土器・弥生土器・珠洲焼・礎があります。縄文土器と珠洲焼は各1点だけです。弥生土器は総数点あります。弥生土器は、蓋・壺・甕・高杯があり、弥生後期から弥生終末期のものが見られます。

(3)ゴダイ塚出土品（遺跡番号 2010623、

写真3） 富山市婦中町千里にある丘陵頂部から、多量の河原石とともに出土したもので、『婦中町史』（昭和42年1月発行）に実測図と写真が掲載されました。鎌倉～室町時代の寺院跡あるいは墓地と推定されました。

現物を見ると、広口甕は口径約45cmにもなる大型品で、体部外側には彫りが深く間隔の密な綾杉文叩き痕が認められます。内面は平滑です。鉢は3個体分があります。口縁部は器厚が薄く、やや内湾ぎみで水平口縁です。底面中央にはい



写真3 ゴダイ塚出土品

ずれも器壁の半分ほど円形のホゾ穴が彫ってあります。

これらの土器は、形態の特徴から、能登珠洲で焼かれた珠洲焼と考えられ、吉岡康暢氏による珠洲陶編年〔吉岡1994〕のI期（12世紀後半、平安末～鎌倉初期）にあたります。

これらの土器の用途は、経筒外容器とその蓋の組み合わせと推定されます。広口甕は経筒外容器に当たりますが、これまで確認されている経筒外容器よりはるかに法量が大きいため、経筒以外に、書写経典等を納めたものか、あるいは骨蔵器であったものか、今後検討する必要があります。また鉢が蓋だとすると、底部のホゾ穴には、宝珠などの装飾部が嵌め込まれた可能性があります（以上吉岡康暢先生のご教示による）。

このような組み合わせの土器は、これまで北陸で知られておらず、出土した遺跡の性格の検証が必要となりましたが、現地は既に工事で破壊されており、復元できない状況です。

(4)みくりが池周辺出土（？）古鏡（写真4、図1） 立山町教育委員会の古封筒に単独で入っていたものです。封筒の表書には「みくりが池周辺出土？」と？マークが付けてありました。この古鏡はこれまで幾度か実施された立山信仰遺跡調査の調査報告には紹介されておらず、当時の関係者にも確認しましたが、誰もこの古鏡の存在を知らないということでした。『立山町史 上巻』にはみくりヶ池から室町鏡等が出土したという報告が掲載されており（p849）、この古鏡をさすのかもしれません。

岡崎卯一氏も昭和35～37年の立山信仰遺跡調査に参加し、報告書〔富山県教委1970〕作成もされました。その後『立山町史』編纂にも関わられました。その過程で第三者から入手されたものかもしれません。

古鏡は銅製で、径7.8cm、高さ0.8cm、重さ67.4gです。内区の文様は、不鮮明な部分も

ありますが、上部中央に2羽の鳥、その下に松とみられる樹木、中央に山とみられる波状の文様、下半は洲浜あるいは船の情景を描いている可能性があります。紐座は、菊花文とみられる円形状の文様です。外区は不鮮明ですが、左下に菊花とみられる円形の文様が残っています。これら文様の特徴から、この鏡は14~15世紀代に製作されたものと推定されます。

なおこの鏡は、向かって右側に2箇所穴を開け、こちらを上にして紐を通し、ぶらさげたと考えられます。これは鏡として使われなくなってからの行為と考えられます。

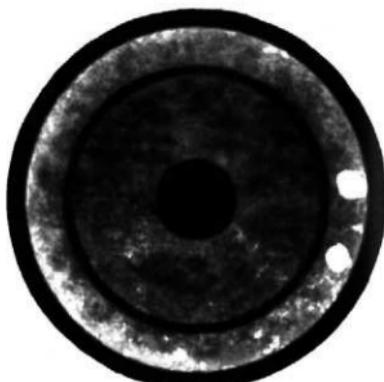


古鏡拓影(1:2)

写真4 立山みくりが池周辺出土?の古鏡



古鏡実測図(1:2)



古鏡X線透過画像(1:2)

表1 岡崎卯一氏旧蔵資料一覧

遺跡名	所在地	種別	年代	個数	備考
恩王寺遺跡	富山市恩王寺	縄文土器・土師器	縄文・古代	40	「表様」のラベルあり
		縄文土器・須恵器・鉄滓	縄文・古代	60	「盛土 工作中」のラベルあり
		打製石斧	縄文	1	「盛土 工作中」のラベルあり
		縄文		2	「盛土 工作中」のラベルあり
		越中懶戸	江戸	1	「盛土 工作中」のラベルあり
		縄文土器	縄文	11	「44,11,23 茶褐色土内出土」のラベルあり
		打製石斧	縄文	1	「44,11,23 茶褐色土内出土」のラベルあり
		須恵器	奈良～平安	1	「44,11,23 茶褐色土内出土」のラベルあり
利波遺跡	富山市利波	縄文土器	縄文晩期	1	
		弥生土器	弥生～古墳前期	223	
		珠洲	中世	1	
		縄文		4	
金屋遺跡	富山市金屋	弥生土器	弥生～古墳前期	40	袋に「金屋地内」の注記あり
		須恵器	古代	1	袋に「金屋地内」の注記あり
		陶器		1	袋に「金屋地内」の注記あり
		縄文		19	
ゴダイ塚	富山市婦中町	珠洲	中世	6	甕1個体・鉢5個体
みくりが池周辺?	立山町	古鏡	中世	1	?とあり推定
越中国分寺 (伏木一宮)	高岡市伏木	縄文		7	「FIK 660822」の注記あり
		珠洲	中世	2	「FIK」の注記あり
		陶器	近世	2	
		羽口		1	「KB」の注記あり
		鉄滓		3	
		鉄器		6	
		古鏡	江戸	3	寛永通宝
不明1		須恵器	古代	7	金草第一古窯跡?
		縄文	古代	1	金草第一古窯跡?
		陶器	近世	2	金草第一古窯跡?
		縄文		8	金草第一古窯跡?
		縄縄		189	金草第一古窯跡?
		骨片		1	金草第一古窯跡?
不明2		縄文土器	縄文	23	S44,4,27の新聞に包む 庄川町松原遺跡?
不明3		須恵器	奈良～平安	15	金草第一古窯跡?
不明4		縄文土器	縄文	16	恩王寺遺跡?
		縄文		2	恩王寺遺跡?
		須恵器	奈良～平安	3	恩王寺遺跡?
計				685	

今回の寄贈は、岡崎卯一氏次女祖 雅子氏を通じ行われたものです。

本報告作成にあたり、次の方々からご教示・ご協力を得ました。記して謝意を表します。

吉岡康暢、安田良栄、西井龍儀、藤田富士夫、木本秀樹、久々忠義、佐伯哲也、大野 純、加藤基樹、越前慶介、三浦知徳、間野 達、富山県教育委員会（順不同・敬称略）

（古川）

文献

岡崎卯一先生と考古学世話人会編 2001 「岡崎卯一先生と考古学」『富山市考古資料館紀要』20

久保智康 1999 『日本の美術 №394 中・近世の鏡』至文堂

富山県教育委員会編 1970 『立山文化遺跡調査報告書』

吉岡康暢 1994 『中世須恵器の研究』吉川弘文館

研究余話 I 日本海域における下呂石の流通について

古川 知明

(埋蔵文化財センター所長)

1 はじめに

飛騨南部の下呂市湯ヶ峰を原産地とするガラス質の流紋岩石材は「下呂石」と呼ばれ、旧石器時代から縄文時代の石器の石材として周辺に搬出された。特に湯ヶ峰から 80~120km にある富山平野への搬入量が多いことが近年判明している。本稿では、日本海域における下呂石の分布状況を把握し、そこから判明する流通の実態を解明することを目的とする。

2 研究史

下呂石の日本海域への搬入状況の研究は、1995 年高山考古学会石原哲彌を端緒とし [石原 1995]、2003 年第 1 回下呂石シンポジウムで飛騨考古学会岩田修が踏査・文献により資料を蓄積した。この時点における新潟・富山・石川の分布は 9 遺跡であった [岩田 2003]。爾後富山で 4 遺跡が追加された [岩田 2006]。

2011 年、第 4 回下呂石シンポジウムにおいて、古川知明が福井東部・石川・富山・長野北部・新潟西部の出土集成を行い、基本情報と課題を整理した [古川 2011a]。なお、このシンポジウム以前における詳細な研究史は前掲報告を参照されたい。爾後旧石器～縄文草創期における同地域の搬入状況について分析した [古川 2011b]。

2013 年、第 2 回石材のつどいにおいて、古川は日本海域における下呂石の流通について、第 4 回下呂石シンポ以後増加した新資料を加えて報告した。この報告では、2011 年報告より分布域の拡大・原石形態の追加について追加修正を行なった [古川 2013]。

3 日本海域における下呂石の流通状況

(1) 遺跡数と時代別推移

日本海域とした対象範囲は、新潟・富山・石川・福井の 4 県と長野北部である。

この地域において、下呂石の使用は総数 174 遺跡において確認された。県別では、福井 20、石川 33、富山 110、新潟 7、長野 5 遺跡である。時代別では、旧石器時代～縄文草創期 31、縄文時代（早～晩）114、弥生時代 29 である。詳細にみると、旧石器時代～縄文草創期は新潟 2・富山 25・長野 4、縄文時代（早～晩）は新潟 4・富山 74・石川 23・福井 12・長野 1、弥生時代は、新潟 1・富山 10・石川 10・福井 8 である。なお新潟県佐渡島での存在は確認されなかった。

(2) 分布域

全時代の分布域は、湯ヶ峰からの距離で、西へ 130km（若狭地塊）～北へ 170km（能登七尾湾北岸）～北東へ 270km（阿賀野川上流付近）圏内である。

時代別に見ると、旧石器～縄文草創期は 80~110km 離れた富山平野に多く、次いで北東に 120km 離れた野尻湖から千曲川・信濃川上流域に多い。北東 270km まで広がり、これが全時代を通じ最遠である。富山以



図 1 旧石器時代～縄文草創期の下呂石出土遺跡分布図



図 2 縄文時代の下呂石出土遺跡分布図
〔古川 2011a〕に加筆修正

西には及ばない（図1）。

縄文時代（早～晩）は西へ 130km（若狭・鳥浜貝塚）～北へ 170km（能登七尾湾北岸）～北東へ 150km（新潟西部）であり、富山平野に最も集中している（図2）。

弥生時代は富山西部以西に広く分布し、西は 110km に広がる。北東はこの分布域から離れて新潟西部に 1 遺跡のみである（図3）。

（3）年代的変遷

時代毎の搬入状況を見ると、最も古い搬入は長野北部の信濃川上流野尻湖遺跡群で、AT 以前の台形石器段階である（中村 2007）。富山平野では瀬戸内系石器群期の富山県南砺市南原 C 遺跡〔麻柄 2006〕を端緒とし、続く小形ナイフ形石器期に神通川流域に広がる。石器のみの遺跡が多いが、剥片併用製作遺跡も存在する。

縄文草創期には富山以東に分布が見られ、北東 270 km の小瀬ヶ沢洞窟（及川 2010）が最遠である。

縄文時代早期以降には、前期後半・中期・晚期に遺跡数が増加する。前・中期は富山平野を主体とし、特に前期中～後葉が最も物量が多い戸みられる。後・晚期には新潟西部から福井東部に散漫に分布する。

弥生時代は中・後期にピークがあり、富山西部から福井東部にやや散漫に分布する。

（4）原石搬入形態

湯ヶ峰以北における原石の流通は拳程度の亜角礫によるものが主体である。岐阜・富山県内の各製作遺跡における原石表皮は、礫稜部の衝撃痕や摩滅が少ないものが多く、湯ヶ峰原産地あるいはそこからの崩落品を探取したことを示しており、河川堆積までに至っていない角礫あるいは亜角礫を示している。

このような主たる状況とは別に、高崎市（丹生川）上上野遺跡の 5.25kg の大形石核の存在が從来から知られ（小嶋ほか 1999）、近年神通峡の富山市布尻遺跡でも 2.4kg の大形石核が確認された（古川 2010）。湯ヶ峰と富山平野を結ぶルート上において、通常形態とは異なる、持ち運びに苦労するであろう大型原石という特殊な原石流通形態が存在したことが判明した。明確な計測データはないが、通常流通する原石は拳大（150～250g）と推定され、これらと比較すると布尻遺跡の石核で 9.5 倍以上、上上野遺跡の石核で 21 倍以上となり、かなりの相違がある。

一方、富山西部において、1 点のみであるが原産地以南で採集可能な円錐原石が確認された。氷見市上久津呂中屋遺跡〔富山県文化振興財団 2012〕において検出された縄文早期末から前期の楔形石器（図4）は、著しく摩滅し白色化した表皮が部分的に残存する円錐で、河川礫である。石器は円錐を縦に半剖しており、復元すると長さ 7～8cm、幅 4～5cm となる。このような形態を示す河川礫は、これまでの研究成果（沢田 2001・中村 2007 ほか）によれば、飛騨川と木曾川の合流点以南、原産地から約 15～40km 以上南に離れた河川敷において採集可能とされているものである。この形態の原石の存在は、富山平野への搬入形態に 2 ルート存在したことを示唆する。

（5）石器種別による動向

縄文早期以降の器種は石器を主体とし、次に石匙・石錐が多い。遺跡毎に出現器種は異なる。中～晚期の富山県境 A 遺跡では石器・石錐があり石匙には見えない。各器種における出現率は約 6% である。

石核・剥片の存在等により石器製作を裏付ける遺跡は、旧石器時代から縄文草創期においては少なく、縄文時代早期以降では半数近くがあり、相対的に多くなる。弥生時代では中核的遺跡のみで製作が認められる。全体を通じ、完成された石器として搬入されたものが多いと理解される。

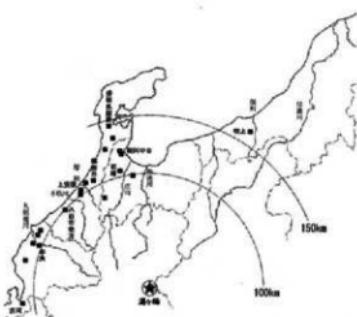


図3 弥生時代の下呂石出土遺跡分布図

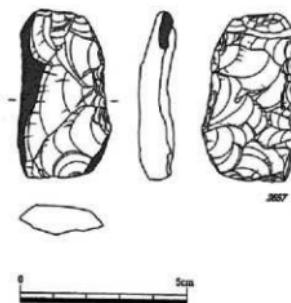


図4 上久津呂中屋遺跡の楔形石器

〔富山県文化振興財団 2012〕に網点加筆

4 原石搬入形態と搬入ルートの再検討

湯ヶ峰以北、特に搬入量の多い富山平野周辺における原石の流通形態は、これまで拳大程度の亜角礫～亜円礫によるものが主体であると理解されてきた。2011シンポジウムでは糸川中期富山市布尻遺跡採集の2.5kgの大型石核を示し、従来とは異なる見解を示した〔古川2011〕。このような大型石核は、すでに飛驒市(丹生川)上上野遺跡で出土しており、布尻の2倍5kgにも及ぶ人頭大的石核の存在もクローズアップされた。

布尻遺跡の大形石核は、平らで摩耗した自然面をもち、原産地麻績周辺で産出する原石と近似する(岩田修氏の教示による)。原産地周辺における踏査により採集した原石と比較すると、原産地直下の乗政川河川転石よりも稜角部がよく残っており、角礫状といえる。これは乗政側山地礫頭で採集できる角礫原石に近い。したがって布尻遺跡の大形石核は、概ね原産地麻績付近において採集されたと考えることができる。一方10cm以下の小形石核は、稜角部がやや摩滅している。これには爪状剥離を認められ河川転石である。亜角礫に分類され、原産地直下の乗政川河川転石の稜角部と近似する。

以上のように布尻遺跡では、拳大の亜角礫と大型原石という2つの形態での原石流通が存在した。前者は原産地北側の飛驒北部における一般的な流通形態、後者は神通川流域の上上野遺跡と布尻遺跡のみに見える特殊な在り方と評価できる。両遺跡はともに神通川上流域に存在し、飛驒から富山平野へ抜けるルート上ある。いは近接して存在し、搬入ルートの中継点というべき位置にあるといえる。布尻遺跡では製品・剥片とともに製作拠点と理解され、このことを裏付ける。

2kgを越える大型原石の存在は、同じ遠隔地石材である信州産黒曜石(黒曜岩)においても特殊な意味をもつて捉えられている。関東中部においては、縄文前期後葉に流通量が大幅に増加し、この時期から2kg超の大型原石が流通することが判明している。大工原豊は、仲介者の存在により石材を獲得する仲介者交易と理解し、流通形態が変化したためとし、この超大型原石は仲介者集団を特徴づける威信材として存在したと推定した〔大工原2007〕。

布尻遺跡の集団も下呂石を富山平野へ運搬を仲介する立場として、威信材として保有したと理解することは可能とみられる。

その後、先述のように富山西部において、原産地から南に数10km離れた河川転石採集の円礫が搬入された事実が判明したことによって、富山平野への搬入ルートが、これまで想定したように、原産地から北上するといった単純な図式ではなく、原産地以南から原産地を通過して北上する、あるいは南～西の下流側へ展開した後富山側へ向かうといった別ルート(莊川→白川→五箇山→氷見)も視野に入れる必要が生じたことになり、搬入ルートの様態は複雑化したといえる。

以上により、縄文時代における富山平野への下呂石原石の搬入形態には3通りが存在した。第1は、大形角礫が原産地から飛驒川・神通川を経由して富山平野中央部へ搬入されるもの、第2は、原産地付近採集の拳大の河川転石(亜円礫～亜角礫)が飛驒川・神通川を経由して富山平野中央部へ搬入されるもの、第3は、原産地から15～40km離れた飛驒川・木曾川河川転石が県西北部に搬入されるもので、この形態では前2者のルートをトレースしない庄川→白川経由も想定しうる(図5)。

5 日本海側における下呂石の消長

日本海側における下呂石使用の始原は、これまでのところ長野北部の野尻湖周辺においてAT以前の台形石器の段階とみられる。最も搬入量の多い富山平野においては、AT以後の瀬戸内系ナイフ形石器群の段階であり、長野北部

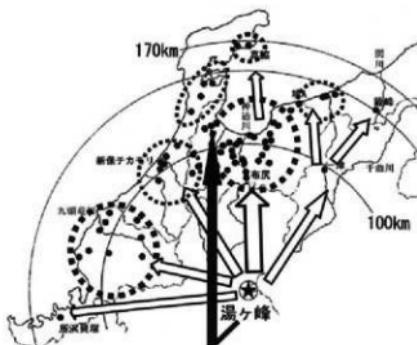


図5 縄文時代における下呂石使用領域と運搬経路

- ・原産地→(神通川)→富山平野→(富山湾)→(能登)
- ・原産地→木曾川南下→白川?→五箇山?→氷見→(能登)
- ・原産地→(千曲川)→大町→(姫川)→糸魚川→堀A?
- ・原産地→(千曲川)→妙高高原
- ・原産地→(犀川・手取川)→金沢平野
- ・原産地→(九頭竜川)→福井平野・越前海岸
- ・原産地→?→敦賀?→若狭
- ・能登 or 金沢平野→七尾→呂知地溝帯

* 黒矢印は新たに想定した搬入ルートを示す

〔古川2011a〕に加筆修正

よりやや遅れる。

縄文時代には前期後半から中期において、富山平野を中心に搬入量が増加するとともに、分布域が西（若狭）と北（能登）へ最大に広がる。後・晚期には金沢平野に遺跡が増加する。

下呂石使用の終焉は、弥生時代後期頃とみられる。この時期の分布は、能登南部から敦賀湾までの北陸西部に集中し、やや離れた高田平野にわずかに見える。遺跡からの出土数が減り、流通量が減少するとともに、製作遺跡数も減少し、石器を主とした製品のみの出土が増える。同様に遠隔地の長野市松原遺跡（弥生後期）では、武器とみられる長大な石鎌に下呂石が認められており、地域間相互の交流に基づく贈与が推定されている〔町田 2013〕。

6 下呂石流通の動向

日本海城で最も物量的に流通したとみられる縄文時代前期後葉は、他の石材においても流通範囲の拡大現象を認めることができる。先述の信州黒曜岩においては、和田岬原産地群が前期中葉以降供給が増えたことが判明しており、その要因として、石材獲得方法として新たに採掘が開始されたことと連動する可能性が指摘されている〔堤 2002〕。

一方他地域においては、九州姫島産黒曜岩では、縄文前期に 10kg 超の大型石核が出現し、製作のセンター的な中継地遺跡が出現するとともに、分布域が拡大することが把握されており〔下森 2004〕、下呂石と類似した状況が認められる。

このように遠隔地石材の流通において、流通範囲の拡大といった現象が縄文前期後葉前後の時期に、希少性のある遠隔地石材のいくつかに共通して認められることは留意される。

なお、湯ヶ峰原産地における原石採取地については、石質の変化から、縄文前期から中期にかけて西側（湯ヶ峰崩れ側）から南東側（東川沿い）に移動している可能性があるとされている（馬場伸一郎氏のご教示による）。この変化が日本海城への流通にどのような変化をもたらしたかの検証は、今後の課題である。

おわりに

本稿ではあまり触れなかったが、下呂石にはいくつかの類似石材が存在しており〔古川 2011a〕、同定を困難にしている。下呂石を蛍光 X 線分析した結果、まとまった範囲に収まることが明らかとなっているので〔平井ほか 2013〕、今後蛍光 X 線分析が石材同定に有効となることが見込まれる。各地において同定資料が蓄積されることが望まれる。

本稿作成にあたり、次の方にご教示を得た。記して感謝申し上げたい。

朝田亜紀子・鈴木真友美・岩田 修・堅木宜弘・川添和暁・久々忠義・小島秀彰・小杉 康・島田哲男・田部剛士・堤 伸・中村由克・長屋幸二・馬場伸一郎・麻柄一志・三浦知徳・吉朝則富・下呂石シンポジウム実行委員会・福井県立若狭歴史民俗資料館・公益財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所（順不同・敬称略）

文献

- 石原哲爾 1995 「飛騨の地理と下呂石の動き（遺跡）」『飛騨と考古学』飛騨考古学会
岩田 修 2011 「下呂石シンポジウムを経て」『どっこい!』99-10-16 飛騨考古学会
岩田 修 2012 「下呂石研究の現状(二) 旧石器-縄文時代草創期の下呂石」『走太記』7-60-74 飛騨学の会
及川 権 2010 「諏訪湖底帯遺跡と黒曜岩原産地をめぐる地域文化の形成過程」『信州黒曜石フォーラム 2010』
小崎準一・吉朝則富 1999 「下呂石核の巨大資料」『どっこい!』第 62 号 飛騨考古学会
沢田伊一郎 2001 「飛騨地方の歴史-下呂石原産地の相模と瀬戸内技術の流れ」『飛騨と考古学-旧石器特集号-』飛騨考古学会
下森弘之 2004 「飛騨黒曜岩の歴史とそのシステム-飛騨黒曜岩の分布から考察-」『黒曜石文化研究』明治大学黒曜石研究センター
大工原 登 2007 「黒曜石交易システム-開拓・中部地方の銀座-」『飛騨と考古学 6 ものづくり 道具製作の技術と組織』同成社
田部剛士 2011 「下呂石の近畿地方への広がり」『第4回下呂石シンポジウム 2011 旅する下呂石-思えば遠くへ行ったもんだ-』下呂石シンポジウム実行委員会
堤 伸 2002 「中部高知における黒曜石研究の現状と課題」『黒曜石文化研究』明治大学黒曜石研究センター
富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所 2012 「上久押呂中屋遺跡発掘調査報告」
中村由克 2007 「下呂石の供給」『縄文時代の考古学 6 ものづくり』同成社
平井義敏・藤根久・竹原弘典 2013 「第3章 設楽火山岩類起源の玄武岩・安山岩製石器について-根羽石と只押安山岩-」『新修斐田市史』18
古川知明 2010 「富山県における下呂石の輸入状況」『越中と美濃を結ぶ考古学 交流のはじまり 旧石器時代～古代 記念講演録』富山市教育委員会
会埋蔵文化財センター
古川知明 2011a 「北陸の下呂石」『第4回下呂石シンポジウム 2011 旅する下呂石-思えば遠くへ行ったもんだ-』19-40
古川知明 2011b 「旧石器時代から縄文草創期における下呂石の北陸への貿易」『月刊考古学ジャーナル』610:11-14
古川知明 2013 「日本海城における下呂石の流通」『石器石材のついで 第2回 シンポジウム「富山の石材と玉髓・碧玉」予稿集』17-20
麻柄一志 2006 「日本海沿岸地域における旧石器時代の研究」雄山閣
町田勝則 2013 「石器の生産と流通」『文化的十字路 信州』一般社団法人日本考古学協会 2013 年度長野大会実行委員会

岡田 一広

(日本考古学协会会员)

1. はじめに

人々が住居を構え住むという行動には地理的要因が非常に重要となる。例えば現在の私たちが住んでいる場所を考えると、いろいろな店舗が近くにある都市部、鉄道の駅や幹線道路など交通の便のいい場所、あるいは勤め先に近い場所など様々な条件を考えることができる。

従来は2次元である紙の地図によりこうした地理的要因を検討してきたが、現在はパソコン・コンピューター(PC)のめざましい進化とともに3次元のデジタルによる地図データ(Digital Mapping; DM)の整備が国土地理院等でなされており、こうしたPCやDMを活用し地理情報システム(Geographic Information System; GIS)を構築して様々な地理的分析や解析をすることができるようになった。

2. GISとは

最も私たちの身近にあるGISはカーナビゲーションシステムであろう。道路等のデジタルマップ、施設等の目的地の検索、衛星を利用したリアルタイムの位置観測(Global Positioning System; GPS)等の地理情報を複合的に1つの画面に表示あるいは音声案内により私たちは道案内という活用をしている。

GISに用いられるデータは、一般的にシェープ形式(SHP)を用いており、この形式はポイント・直線・直線で囲まれた範囲(ポリゴン)によって構成される。これらのデータにはすべてに座標の他に名称や種別といった要素が含まれており条件検索ができるようになっている。また、画像データに位置情報をもたせたTIFF形式であるGEOTIFF等のラスターデータも使用する。

近年になって、インターネット上でGISに使用できる海岸線・河川・道路・5・10・250mメッシュの標高値等の基礎データを国土交通省(注1)や国土地理院(注2)で入手し規約のもと活用することができる。地球規模で約1秒(約30m)メッシュでの標高値(数値標高モデル、Digital Elevation Model; DEM)を経済産業省と米国航空宇宙局(NASA)が共同で整備したASTER GDEMも活用できる(注3)。また、国土地理院発行の1/25,000図をGISで活用できる形式での販売(注4)も開始している。

こうした、データを扱うには有料のESRI社 ArcGIS(注5)のほか、フリーソフトとしてカシミール3D(注6)、Google Earth(注7)、そしてQGISおよびQGISと連繋できるGRASS GIS(注8)などがあり、現在は一般的に扱いやすい環境になってきている。

そのほかに、インターネットを介して地図情報を得る電子国土(注9)があり、富山県ではこの電子国土に文化財情報などを組合せた富山県GISサイト(注10)を開設している。

筆者は平成25年に小竹貝塚の調査に携わる機会を得、本稿ではGISを用いて小竹貝塚に関する眺望と行動範囲を考察してみたい。

3. 縄文時代前期における海進

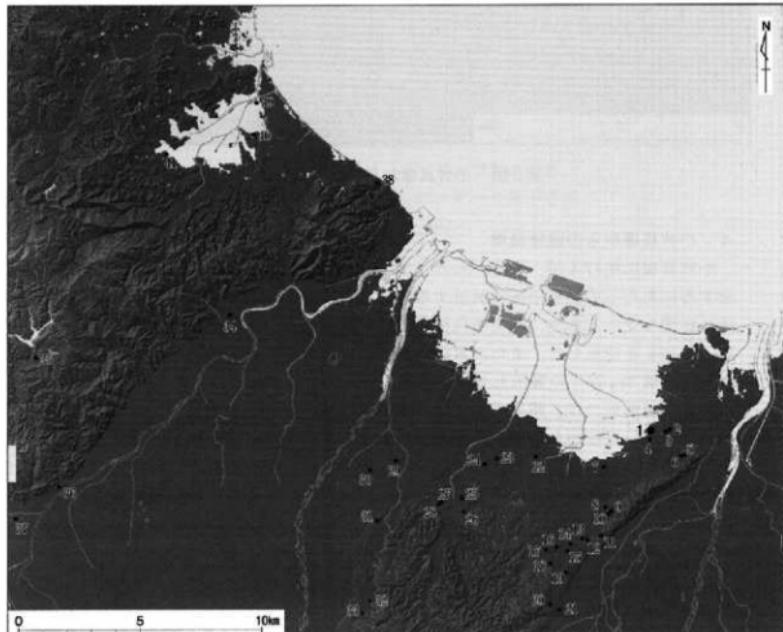
2011年3月11日の東日本大震災以降、甚大な津波災害によりハザードマップの見直しがなされたことは記憶に新しい。このハザードマップの作成にはGISの役割が非常に大きい。

氷河期から縄文時代に入り平均気温が上がり氷河が溶け、縄文時代前期になると現在よりも海水面が上がった。このことを一般的に縄文海進と呼ばれ、約6,000年前をピークに2~5m程度の汀線の上昇があったと推定されている。

小竹貝塚は縄文時代前期の貝塚である。日本海は干満の差が大潮でも 2m程度と太平洋側と比べて非常に小さい。従って、良好な貝塚は日本海側には形成されにくいが、縄文海進した縄文時代前期においては、小竹貝塚の他、富山県氷見市上久津呂中屋遺跡や福井県鳥浜貝塚等の貝塚が形成される時期である。近年、小竹貝塚では般治川改修や北陸新幹線建設に伴う発掘調査にて多数の骨を含む非常に保存状況が良い貝塚であることが判明している。

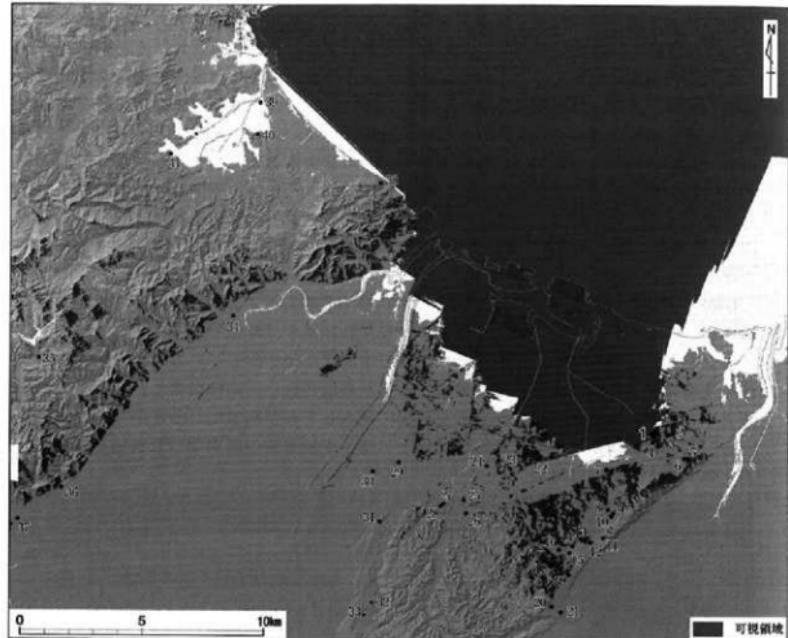
小竹貝塚の既往の調査では貝層がヤマトシジミを主体としており、汽水化した旧放生津潟の汀線の側に立地すると考えられる〔町田 2012 他〕。そこで、縄文時代前期の汀線を GIS にて推定してみたい。使用したデータは国土地理院の基盤地図情報標高 5m メッシュ DEM、水涙線、海岸線である。汀線の標高は最も縄文時代前期の遺跡で標高が低い小竹貝塚の海拔 3m を基準とした（第 1 図）。

解析結果からは既往の研究でも判明している〔藤井 1992〕が、射水平野と氷見平野に潟湖が形成される。射水平野には放生津潟、氷見平野には十二町潟である。また、旧放生津潟の特徴として、呉羽丘陵から四方方面にかけて半島状に突き出しているため、四方から伏木の間の現海岸線あるいはその内側で砂嘴・砂州が形成される可能性が高く、また小矢部川や庄川といった水量の豊かな河川が旧放生津潟に流入しており汽水化しやすかったと推定できる。一方、大きな河川がない旧十二町潟では上久津呂中屋遺跡の調査からも判明しているが海水が主体である〔町田 2013〕。



1. 小竹貝塚
2. 横ヶ瀬貝塚
3. 横ヶ瀬西遺跡
4. 美琴野南遺跡
5. 北代西山遺跡
6. 美琴町西山遺跡
7. 東老田 I 遺跡
8. 古沢遺跡
9. 古沢 A 遺跡
10. 古沢遺跡
11. 芽谷64遺跡
12. 芽谷道路
13. 芽谷67遺跡
14. 向野池遺跡
15. 北押川 C 遺跡
16. 中山中道跡
17. 開ヶ丘中山 I 遺跡
18. 開ヶ丘孤谷遺跡
19. 平岡遺跡
20. 各穠寺前遺跡
21. 千坊山遺跡
22. 針原西遺跡
23. 中山中道跡
24. 西山遺跡
25. 南木曾山 I 遺跡
26. 上野遺跡
27. 小杉流田619遺跡
28. 小杉流田620遺跡
29. 布目沢北遺跡
30. 小泉遺跡
31. 串田新道跡
32. 高沢島 I - II 遺跡
33. 増山遺跡
34. 石坪岡田島遺跡
35. 五位小丸山遺跡
36. 上野八遺跡
37. 板町遺跡
38. 岩崎御庭先遺跡
39. 十二町潟排水場遺跡
40. 園カンケ遺跡
41. 上久津呂中屋遺跡

第 1 図 縄文時代前期の遺跡と縄文海進 (1/20 万)



第2図 小竹貝塚からの眺望領域 (1/20万)

4. 小竹貝塚からの眺望領域

小竹貝塚に住む人が、遺跡からどこまで眺めることができるかを推測してみる。GISで解析するにあたって眺望領域を解析する際に5mメッシュDEMでは現代の水田等の畦により結果に影響を受けるため、縄文時代前期の推定海水面とした標高3mより低い箇所は一律標高3mとDEMを修正した。また、富山新港周辺の造成や国道・堤防等の盛土など現代に改変された標高3m以上の箇所も3mに修正し海水面と同じ標高とした(注11)。

眺望領域解析では、眼高の高さを平均的な日本人男性の目の高さである1.5mとした。その結果、小竹貝塚からは旧放生津潟一帯およびその沖合の富山湾が一望できる結果となった(第2図)。旧放生津潟にできたであろう砂嘴や砂州が形成されていれば死角となる箇所も一部あるだろうが標高の高い砂丘を形成していない限り、この広い眺望領域は維持できると推定できる。

また、背後の呉羽丘陵から境野新扇状地にかけて望むことができる。

こうした広い眺望領域は漁撈を中心として狩猟・採集などの活動を有利にし、日本海側最大級の貝塚を形成した理由の1つになると推定できる。

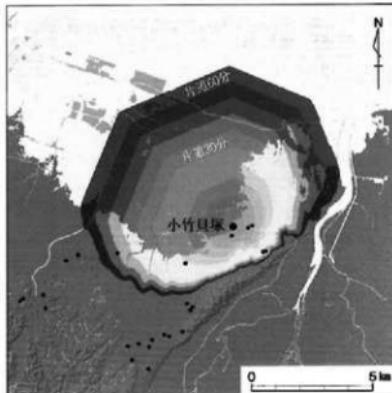
5. 小竹貝塚からの行動範囲

小竹貝塚に住む人が、遺跡からどのくらいの範囲で活動していたかを推測してみる。GISで解析するにあたって平坦な場所において約1時間で移動できる距離を約6kmとし移動コストを解析した(第3図)。小竹貝塚からは丸木舟が出土しており、水上の移動に関しては、

風向や潮流によっては 6km 以上進むことができよう。

解析結果からは、旧放生津潟の東半部およびその沿岸・呉羽丘陵西麓・神通川河口左岸・四方から海老江にかけての富山湾がその範囲に含まれる。神通川河口部の淡水域に生息するコイ・フナ等の魚類、汽水域である旧放生津潟に生息するヤマトシジミ等の貝類やスズキ・クロダイ等の魚類、海水域に生息するサザエや大形魚類および鯨類、そして呉羽丘陵に生息するイノシシやニホンジカ等のは乳類等、貝層にこれらの骨が含まれることと整合する。

したがって、このエリア内が日常生活における活動範囲に相当すると推定できる。



第3図 小竹貝塚からの行動範囲 (1/20万)

6. おわりに

今回実施した GIS による解析の最大の課題としては地図情報が現在の地形を元に実施しており、小竹貝塚が営まれた縄文時代前期以降におきた地形変化を考慮することはできなかった。今後発掘調査等の情報から更なる環境復元を進めていきたい。

注

- (1) <http://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/gis/index.html>
- (2) <http://www.gsi.go.jp/kiban/index.html> ユーザー登録が必要。
- (3) <http://gdem.ersdac.jspacesystems.or.jp/> ユーザー登録が必要。
- (4) 販売は日本地図センター。<http://www.jmc.or.jp/>
- (5) <http://www.esrij.com/>
- (6) <http://www.kashmir3d.com/>
- (7) <http://www.google.co.jp/earth/>
- (8) <http://www.qgis.org/ja/site/> QGIS と同時に GRASS GIS もインストールされる。
- (9) <http://portal.cyberjapan.jp/site/mapuse4/>
- (10) <http://wwwgis.pref.toyama.jp/toyama/index.asp>
- (11) DEM は標高を 3m と揃えたが、地図に用いている陰影図は旧放生津潟の標高 3m 以上の箇所も表示している。

文献

- 宇野隆夫編 2006 『実践 考古学 GIS 先端技術で歴史空間を読む』NTT 出版
岡田一広他 2013 『小竹貝塚発掘調査報告書』富山市教育委員会
川崎京美 1993 「小竹貝塚採取の動物遺存体」『富山市考古資料館紀要』第 13 号
南部久雄 1989 「富山の川魚」『とやまと自然』第 12 卷春の号 富山市科学文化センター
藤井昭二 1992 「富山平野」『アーバンクボタ』31 株式会社クボタ
町田賛一 2012 「富山県富山市小竹貝塚の発掘調査成果について」『土曜考古発表資料』
町田賛一 2013 「第VI章 総括、1 縄文時代」『上久津呂中屋遺跡発掘調査報告』 公益財団
法人富山県文化振興財团埋蔵文化財調査事務所

—近世期仏師の新資料—

古川 知明
(埋蔵文化財センター所長)

はじめに

医王山東薬寺（人見照直住職）は、富山市牧野の所在する真言宗古刹である。東薬寺の初見は、貞享2（1685）年「東薬寺秀恵」から真言宗金沢明王院宛提出された「貞享二年寺社由緒書上」〔井上校訂 1974〕である。文化3（1806）年明王院宛寺社由緒書上には慶長9（1604）年開基、産神熊野権現不動明王を古来安置すると報告した〔大山町史編纂委編 1964〕。明治12（1879）年石川県に提出された財産目録写には「由緒 人王四十二代 文武天皇ノ御宇 大寶元年亥年行基菩薩ノ開創ニ御座候」とあり、以後大宝元（701）年行基創建とする形となつた。

本尊木造不動明王坐像（県指定）は、放射性炭素年代測定により11世紀前半の制作とされ、その年代が推定されている大岩不動（磨崖仏）に並ぶ北国不動の優作である〔古川ほか 2010〕。

富山市埋蔵文化財センターでは、人見住職から依頼を受け、本堂に所在・安置されている木造弘法大師坐像墨書き文について調査を行なつた。本像は現本堂以前の旧本堂に安置されていたものである。

1 木造弘法大師坐像の概要

弘法大師は、黒塗りの椅子形木座上に趺坐する、いわゆる真如様大師像（1）の形式である。本体は、赤色に彩色された衣の上に黄色の袈裟をつけ、その紐を左肩にかけている。左手は掌を上にして膝の上に置いて百八顆の念珠を執り、右手は掌を反転して胸の前で五鉢杵を持つ。本像では上半分が折れて欠損している。念珠は水晶と思われる。手は体躯に比して小さく表現されている。

木座の右隅には金色に彩色された水瓶（淨瓶）を置き、木座の下中央には紺色の木履（沓）一足を置く。

像本体は、像高32.8cm（1尺8分）、底面幅33cm（1尺9分）、奥行24cm（7寸9分）で、内部は中空である。内部の剥抜寸法は、横25cm、縦15cm、高さ16.5cm



写真1 弘法大師像（正面から）



写真2 本体頭部

である。11材の矧付により構成されており、主に前後2材を主体としたものに、裾部などを9材組ぎ足している。頭部は前後で別材である。内部11材のうち主2材はスギまたはヒノキの針葉樹、他の9材は樹種不明の広葉樹である。頭部は別作で、首下端にあるホゾを本体上部のホゾ穴（径4.5cm）に差込む形態である。顔の表現は、ふくらとした容貌で、目は伏し目がちである。口は小さく紅をひく。鼻先端を欠く。

左右の手も別材で、差込式である。

牀座は、横36.4cm 奥行27cm 高さ4.8cmで、板組である。正面側面は3色による縦縞文様、他の3面はコバルトブルーのペタ塗りで、明治以降の補修である。この牀座内面に墨書がある。

椅子は10材の角木を組み合わせる。角ホゾ接で作るが、後世に丸釘補強している。

台座は、横44.5cm 奥行33cm 高さ6.8cmで、板組である。上面の板材は横板2枚を用い、正面側の1枚（厚さ6mm）には、2カ所に 2×2 cmの方形穴が空いている。この位置は、椅子脚部の位置とは符合しないため、この台座あるいは台座上面の穴のある板材は、別材の転用あるいは後補と考えられる。この板材には丸釘補強が見られる。

水瓶は縦2材の矧付である。添え付け場所には竹串が打たれ、水瓶の底面中央の穴に差込む形態である。

2 仏師墨書について

牀座内面には、板隅部に墨書が認められる。一部後世の塗料塗布があるため見えない部分が存在するが、

安永五年申十一月吉日
大仏師
牧野又吉（花押）



写真4 台座裏面墨書



写真3 本体内部の矧抜き状況



写真5 仏師名部分拡大

「安永五年申十一月吉日／大仏師／牧野又吉（花押）」と 3 行で墨書きされていることが判読される。安永 5 年は西暦 1776 年である。文字は綺麗な楷書で書かれている。

牧野又吉は、東薬寺のある牧野村に製作時に在住した仏師の又吉と解釈できる。

3 富山県内の近世期仏師について

県内でこれまで確認された近世期仏師名は 9 名があり、県外者 4 名、県内者 5 名である（表 1）。寛政 10（1798）年以前は、県外の仏師名が主であり、それ以降県内仏師にとって代わる。そのような動向において、牧野又吉は、県内で最も早く名が表れる仏師として位置づけることができる。

表1 富山県内の仏師名

仏師名	出身地	年号	西暦	製作仏像等名称
1 吉近徳兵衛尉	揖津国尼崎	慶長20	1615	安居寺旧仁王像
2 松井右近	金沢城下下堤町	正徳4	1714	立山芦姫堂不動明王坐像
3 義長	江戸？	享保10	1725	立山芦姫堂大勢至菩薩立像
4 牧野又吉	富山市牧野	安永5	1776	東薬寺弘法大師像
5 巖弥三郎	越前福井城下	寛政10	1798	立山芦姫堂閻魔大王
6 治郎兵衛	富山城下荒町			砺波市比咩神社女神像
7 神尾儀助	富山城下荒町			能登岩倉寺觀音菩薩像
8 権之丞	射水市針山			射水市曼荼羅寺大勢至菩薩立像
9 長谷川喜十郎	滑川町	幕末		
10 本保兵藏	高岡町	幕末		高岡瑞龍寺山門仁王像

おわりに

本寺のような真如様弘法大師像は、他の真言寺院等でも多く見ることができる。今後それらの確認により、仏師名が新たに把握できる可能性がある。

注

1 真如様大師像は、空海の弟子真如親王が描き、伽藍御影堂に納められている御影像（秘仏）の形態をいう。このような姿は室町時代以降多く描かれるようになった。

文献

- 井上鏡夫校訂 1974 『日本海文化叢書第 1 卷 加越能寺社由来』石川県図書協会
大山町史編纂委員会編 1964 『大山町史』
富山県編 1983 『富山県史 通史編 IV 近世下』
富山新聞社報道局編 1974 『越中百家 下巻』富山新聞社
古川知明・松浦正昭・(株)吉田生物研究所・(株)パレオ・ラボ 2010 「医王山東薬寺藏木造不動明王坐像の年代測定分析について」『富山市考古資料館報』47

富山市教育委員会埋蔵文化財センター所報

富山市の遺跡物語 第 15 号

平成 26（2014）年 3 月 28 日

編集・発行 富山市教育委員会埋蔵文化財センター

〒930-0091 富山市愛宕町 1-2-24

TEL076-442-4246 FAX076-442-5810

E-mail:maizoubunka-01@city.toyama.lg.jp

印刷：有限会社ヤツオ印刷